

プログラム

特別講演 … 30

年会長特別シンポジウム … 30

年会特別企画シンポジウム … 31

緊急特別シンポジウム … 32

ジョイントセミナー (JPPS&CINP/JSNP/JSCNP2024) … 32

ジョイントシンポジウム (JPPS&CINP/JSNP/JSCNP2024) … 33

合同シンポジウム … 34

学会委員会企画シンポジウム … 35

学会タスクフォース企画 … 39

優秀論文賞受賞講演 … 40

シンポジウム … 41

ワークショップ … 50

区民公開講座 … 51

メディカルセミナー … 51

デザートセミナー … 53

□頭発表 … 55

ポスター発表 … 63

特別講演

特別講演1

がんの本当の始まり

5月25日(土) 10:00~11:00 第1会場(文京シビックセンター 1階・2階「大ホール」)

座長: 成田 年(星薬科大学 薬理学研究室/国立がん研究センター研究所 がん患者病態生理研究ユニット)

演者: 牛島 俊和(星薬科大学)

特別講演2

薬剤師の業務・役割を高めていくために

5月25日(土) 14:30~15:10 第1会場(文京シビックセンター 1階・2階「大ホール」)

座長: 稲葉 一郎(薬局セントラルファーマシー長嶺)

演者: 本田 顕子(参議院議員)

特別講演3

緩和医療に携わる薬剤師の育成と地域医療連携ーがん領域を中心にー

5月25日(土) 16:00~17:00 第1会場(文京シビックセンター 1階・2階「大ホール」)

座長: 稲葉 一郎(薬局セントラルファーマシー長嶺)

演者: 武田 泰生(一般社団法人 日本病院薬剤師会)

年会長特別シンポジウム

年会長特別シンポジウム

地域に密着した緩和医療薬学を目指す

ー病院、薬局、アカデミアの sustainable な連携を通してー

5月26日(日) 13:00~14:30 第3会場(文京シビックセンター 地下1階「多目的室」)

座長: 伊勢 雄也(日本医科大学付属病院薬剤部)

伊東 俊雅(東京女子医科大学附属足立医療センター薬剤部/がん包括診療部緩和ケア室)

年会長特別-1 地域に密着した緩和医療薬学を目指す

ー病院・薬局・アカデミアの sustainable な連携を通してー

伊勢 雄也(日本医科大学付属病院薬剤部)

年会長特別-2 薬剤師会への期待 ~行政の立場から

矢内 真理子(文京区保健衛生部)

年会長特別-3 切れ目のない、質の高い在宅医療を推進するために、地域薬剤師会の出来ること。
~会員薬剤師に対して行ってきた、無菌調剤研修を中心に~

新井 悟(一般社団法人 文京区薬剤師会)

年会長特別-4 がん教育への薬剤師参画の可能性 ～本学での実践例を踏まえて～

横山 郁子 (神戸薬科大学)

年会長特別-5 病院薬剤師がめざす sustainable な薬薬連携～現状とこれから～

金子 健 (慶應義塾大学病院 薬剤部 / 慶應義塾大学病院 緩和ケアセンター)

年会特別企画シンポジウム

年会特別企画シンポジウム 1

骨転移にどう対応するか～薬剤師としての役割を探る～

5月26日(日) 13:00～14:30 第8会場 (ベルサール飯田橋駅前 1階 [HALL A])

オーガナイザー：余宮 きのみ (埼玉県立がんセンター)

座長：輪湖 哲也 (日本医科大学付属病院)

武井 大輔 (埼玉県立がんセンター薬剤部)

年会企画 1-1 骨転移とは：骨転移の疫学、診断・治療の全体像、整形外科医の役割

城戸 顕 (奈良県立医科大学リハビリテーション医学講座)

年会企画 1-2 骨転移に対する放射線治療

中村 直樹 (聖マリアンナ医科大学放射線治療科)

年会企画 1-3 骨転移患者に対するリハビリテーション・アプローチ

安部 能成 (穂波の郷クリニック)

年会企画 1-4 骨転移における緩和ケア

余宮 きのみ (埼玉県立がんセンター)

年会企画 1-5 骨転移診療において求められる薬剤師の役割とは

小瀬 英司 (順天堂大学医学部附属順天堂医院)

年会特別企画シンポジウム 2

がん病態の多角的な科学検証と次世代型緩和医療科学の最新ベクトル 2023

5月26日(日) 14:40～16:10 第3会場 (文京シビックセンター 地下1階 [多目的室])

座長：成田 年 (星薬科大学 薬理学研究室 / 国立がん研究センター研究所 がん患者病態生理研究ユニット)

南雲 康行 (国立がん研究センター研究所 がん患者病態生理研究分野)

年会企画 2-1 がん病態下における脳内変容と神経免疫機構の最新科学

成田 年 (星薬科大学 薬理学研究室 / 国立がん研究センター研究所 がん患者病態生理研究ユニット)

年会企画 2-2 隣がん悪液質と食欲刺激

光永 修一 (国立がん研究センター先端医療開発センター バイオマーカー探索 TR分野 / 国立がん研究センター東病院 肝胆膵内科)

年会企画 2-3 がん患者の術後せん妄に対する個別化医療の開発

貞廣 良一 (国立研究開発法人国立がん研究センター 中央病院精神腫瘍科)

緊急特別シンポジウム

緊急特別シンポジウム 能登半島地震における薬剤師の災害支援について

5月26日(日) 10:50~11:50 第1会場(文京シビックセンター 1階・2階「大ホール」)

座長: 崔 吉道(金沢大学附属病院 薬剤部)

緊急特別-1 被災地域の病院薬剤師から見た震災対応

梅下 翔(社会福祉法人恩賜財団済生会 石川県済生会金沢病院 薬剤部)

緊急特別-2 地域薬剤師による震災対応-能登半島地震における活動報告-

小林 星太(かがやきクリニック・かがやき在宅診療所)

緊急特別-3 支援に入った薬剤師の視点から

加藤 あゆみ(日本医科大学付属病院 薬剤部)

ジョイントセミナー (JPPS&CINP/JSNP/JSCNP2024)

ジョイントセミナー1

Neurobiology of Opioid Addiction: Opponent Process, Hyperkatifeia, and Negative Reinforcement

5月25日(土) 13:00~14:00 第1会場(文京シビックセンター 1階・2階「大ホール」)

座長: 中川 貴之(和歌山県立医科大学薬学部病院薬学研究室/附属病院薬剤部)

演者: George F. Koob (Director of the National Institute on Alcohol Abuse and Alcoholism (NIAAA))

ジョイントセミナー2

PETを用いた向精神薬の脳内評価

5月26日(日) 9:40~10:40 第1会場(文京シビックセンター 1階・2階「大ホール」)

座長: 溝口 広一(東北医科薬科大学薬学部機能形態学教室)

演者: 荒川 亮介(日本医科大学大学院医学研究科薬理学分野)

ジョイントセミナー3

認知症の緩和ケア - 薬剤師の果たすべき役割 -

5月26日(日) 14:50~15:50 第1会場(文京シビックセンター 1階・2階「大ホール」)

座長: 徳山 尚吾(神戸学院大学薬学部臨床薬学研究室)

演者: 山田 清文(藤田医科大学 精神・神経病態解明センター)

ジョイントシンポジウム (JPPS&CINP/JSNP/JSCNP2024)

ジョイントシンポジウム1 患者さんの病態に応じた疼痛治療

5月25日(土) 13:00~14:30 第2会場 (文京シビックセンター 2階「小ホール」)

座長: 葛巻 直子 (星薬科大学 薬理学研究室)
竹村 佳記 (富山西総合病院 麻酔科)

ジョイントS1-1 鎮痛薬・疼痛感受性個人差の遺伝要因の解明と臨床応用

西澤 大輔 (公益財団法人東京都医学総合研究所)

ジョイントS1-2 臨床から考える疼痛緩和のためのストラテジー

井関 雅子 (順天堂大学医学部麻酔科学ペインクリニック講座)

ジョイントS1-3 ビッグデータからみるがん患者さんの病態とオピオイド選択

高橋 理智 (国立がん研究センター がん対策研究所)

ジョイントS1-4 がん性疼痛を含む持続的な痛みによるエピジェネティック細胞変容と早期鎮痛の重要性

葛巻 直子 (星薬科大学 薬理学研究室/
国立がん研究センター研究所 がん患者病態生理研究ユニット)

ジョイントシンポジウム2 緩和医療における睡眠—覚醒障害の病態と治療

5月26日(日) 13:00~14:30 第1会場 (文京シビックセンター 1階・2階「大ホール」)

座長: 吉澤 一巳 (東京理科大学 薬学部)
藤田 和歌子 (順天堂大学 薬学部 薬物治療学研究室)

ジョイントS2-1 不安に伴う、睡眠—覚醒障害の病態と治療

村岡 寛之 (北里大学医学部精神科学)

ジョイントS2-2 緩和医療における睡眠と痛みの相互連関の理解とその対応

南雲 康行 (国立がん研究センター研究所 がん患者病態生理研究ユニット)

ジョイントS2-3 睡眠の謎に挑む~原理の追求から社会実装まで~

柳沢 正史 (筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構 (WPI-IIIS))

合同シンポジウム

合同シンポジウム1 <日本ペインクリニック学会> がんサバイバーの慢性疼痛への対応

5月25日(土) 16:00~17:30 第8会場(ベルサール飯田橋駅前1階「HALL A」)

座長: 飯田 宏樹(中部国際医療センター)
山口 重樹(獨協医科大学)

合同S1-1 がんサバイバーの慢性疼痛治療:総論と日本ペインクリニック学会
「がんサバイバーの慢性疼痛治療に関するステートメント」の紹介

橋口 さおり(聖マリアンナ医科大学緩和医療学講座)

合同S1-2 がんサバイバーの慢性疼痛に対する薬物療法

上野 博司(京都府立医科大学 麻酔科学教室)

合同S1-3 がんサバイバーの慢性疼痛に対する薬物療法に関する問題と解説

間宮 敬子(信州大学 医学部附属病院)

合同シンポジウム2 <和漢医薬学会> 疼痛及びアレルギー治療に向けた和漢薬の基礎研究と臨床

5月25日(土) 16:00~17:30 第9会場(ベルサール飯田橋駅前2階「ROOM 1」)

オーガナイザー: 武田 泰生(一般社団法人 日本病院薬剤師会)
座長: 礒濱 洋一郎(東京理科大学薬学部)
安東 嗣修(金城学院大学薬学部病態薬理学)

合同S2-1 アトピー性皮膚炎に応用される漢方方剤の抗アレルギー作用について

能勢 充彦(名城大・薬)

合同S2-2 抗がん薬の末梢神経障害性疼痛と漢方薬

安東 嗣修(金城学院大学薬学部病態薬理学)

合同S2-3 五苓散による低気圧誘発前庭神経の興奮抑制作用と低気圧頭痛に対する有効性に関する考察

礒濱 洋一郎(東京理科大学薬学部)

合同S2-4 疼痛の漢方治療

柴原 直利(富山大学和漢医薬学総合研究所和漢医薬教育研修センター)

合同シンポジウム3 <全国がん患者団体連合会> 緩和医療薬学会とがん患者さんとのパートナーシップについて考える

5月26日(日) 9:40~11:40 第2会場(文京シビックセンター2階「小ホール」)

座長: 的場 元弘(青森県立中央病院)
松本 陽子(NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会)

合同S3-1 本学会が、薬学の観点から患者さんに緩和医療を届けるために何をしてきたか、
またこれから何を届けたいかについてを考える

伊勢 雄也(日本医科大学付属病院薬剤部)

合同S3-2 学術団体(学会)はピアサポート団体(患者会等)とどう繋がるべきか

佐々木 治一郎(北里大学医学部新世紀医療開発センター横断的医療領域開発部門臨床腫瘍学)

合同S3-3 がん患者・家族の立場から考える緩和医療薬学会とのパートナーシップ

松本 陽子(NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会)

合同シンポジウム4 <全国薬剤師・在宅療養支援連絡会> 在宅緩和ケアに関わる薬局・薬剤師の業務の実際と今後の課題 ～当学会とJ-HOPの協働による薬剤師業務の検証～

5月26日(日) 9:40～11:10 第3会場(文京シビックセンター 地下1階「多目的室」)

オーガナイザー:塩川 満(東京女子医科大学病院 薬剤部)

座長:塩川 満(東京女子医科大学病院 薬剤部)

宇田 和夫(一般社団法人全国薬剤師・在宅療養支援連絡会)

合同S4-1 在宅緩和ケアに取り組む薬局・薬剤師の実際

小林 篤史(在宅医療特化型 カリン薬局)

合同S4-2 終末期在宅における訪問薬剤師業務調査

田口 真穂(横浜薬科大学 レギュラトリーサイエンス研究室)

合同S4-3 生活者としての『生』を支える:多災・多死社会における在宅緩和ケアの普及推進

鈴木 順子(北里大学)

学会委員会企画シンポジウム

学会委員会企画シンポジウム1 がん患者へのシームレスな支援体制構築を目指して ～イノベーション創出と知識の融合～

5月25日(土) 10:00～11:30 第8会場(ベルサール飯田橋駅前1階「HALL A」)

オーガナイザー:武田 泰生(一般社団法人 日本病院薬剤師会)

座長:武田 泰生(一般社団法人 日本病院薬剤師会)

池田 龍二(宮崎大学医学部附属病院 薬剤部)

委1-1 「診断時からの緩和ケア」における薬剤師の役割

井上 彰(東北大学大学院医学系研究科 緩和医療学分野)

委1-2 がん緩和ケアにおける薬剤師の連携

有馬 純子(鹿児島市立病院)

委1-3 慢性期医療におけるがん患者への支援～総合診療医の重要性～

矢野 諭(医療法人社団大和会平成扇病院/一般社団法人日本慢性期医療協会)

委1-4 在宅疼痛緩和における薬剤師の役割

手嶋 無限(株式会社 ONEDERS アイビー薬局)

学会委員会企画シンポジウム2

2023年度の優秀な薬学的介入事例から学ぶ緩和薬物療法認定の未来

5月25日(土) 13:00~14:30 第3会場(文京シビックセンター 地下1階「多目的室」)

オーガナイザー：吉澤 一巳(東京理科大学 薬学部)
座長：鍛冶園 誠(岡山市立市民病院 薬剤部)
土井 真喜(株式会社メディカルシステムネットワーク 地域薬局事業部・学術部)

委2-1 緩和薬物療法認定薬剤師制度の概要と今後の展望

吉澤 一巳(東京理科大学 薬学部 疾患薬理学研究室/
日本緩和医療薬学会 認定薬剤師制度委員会)

委2-2 終末期の在宅医療における保険薬局の薬学的介入

西尾 洋紀(ファーマシ薬局引野)

委2-3 緩和ケア病棟および緩和ケアチームにおける薬学的介入

加藤 絵理花(戸田中央総合病院(申請時))

委2-4 緩和薬物療法認定薬剤師になるまでの歩み～病院薬剤師の薬学的介入～

佐野 彩華(小田原市立病院)

学会委員会企画シンポジウム3

保険制度委員会の活動と緩和医療薬学

5月25日(土) 13:00~14:30 第4会場(文京シビックセンター 3階「会議室1+2」)

オーガナイザー：伊東 俊雅(東京女子医科大学附属足立医療センター薬剤部/がん包括診療部緩和ケア室)
座長：伊東 俊雅(東京女子医科大学附属足立医療センター薬剤部/がん包括診療部緩和ケア室)
金子 健(慶應義塾大学病院 薬剤部・緩和ケアセンター)

委3-1 社会が求める薬剤師の実装化に向けて ～緩和医療のデリバリングを考える～

桜井 なおみ(一般社団法人CSRプロジェクト/キャンサーソリューションズ株式会社)

委3-2 病院薬剤師の保険制度・介護制度の隙間－患者ケアと薬剤師Feeをどう描くのか－

山田 正実(大阪府済生会野江病院 薬剤科)

委3-3 薬局薬剤師の保険制度・介護制度の隙間－患者ケアと薬剤師Feeをどう描くのか－

橋村 孝博(めいびる薬局)

委3-4 保険制度・介護制度にかかせない調査と報告 —疫学調査からみえる薬剤師の腕の見せ所とは?—

祝 千佳子(東京大学大学院医学系研究科 公共健康医学専攻)

学会委員会企画シンポジウム4

専門薬剤師制度委員企画「緩和医療専門薬剤師としてみえるもの」

5月25日(土) 13:00~14:30 第8会場(ベルサール飯田橋駅前1階「HALL A」)

オーガナイザー：高瀬 久光(順天堂大学医学部附属浦安病院薬剤科)
宮部 貴識(国立病院機構舞鶴医療センター)
座長：高瀬 久光(順天堂大学医学部附属浦安病院薬剤科)
宮部 貴識(国立病院機構舞鶴医療センター)

委4-1 大学病院における緩和医療専門薬剤師の役割と使命

岡本 明大(三重大学医学部附属病院 薬剤部)

委4-2 緩和医療に携わる薬剤師に求められるものとは

川名 真理子 (医療法人鉄蕉会亀田総合病院薬剤部)

委4-3 緩和医療における教育と連携への試み

壁谷 めぐみ (名古屋記念病院 薬剤部)

委4-4 田舎の市立病院薬剤師が取り組む、緩和医療専門薬剤師の役割

高野 陽平 (砂川市立病院 薬剤部)

委4-5 緩和ケア専門医不在の地域中核病院において緩和医療専門薬剤師にできること

中西 順子 (三豊総合病院 薬剤部)

学会委員会企画シンポジウム5 在宅緩和ケア対応薬局の果たすべき役割

5月25日(土) 13:00~14:30 第9会場 (ベルサール飯田橋駅前 2階 [ROOM 1])

オーガナイザー：前田 桂吾 (日本調剤株式会社 在宅医療部)
座長：前田 桂吾 (日本調剤株式会社 在宅医療部)
天方 奉子 (薬局セントラルファーマシー長嶺)

委5-1 在宅緩和ケア対応薬局認証の概要について

前田 桂吾 (日本調剤株式会社 在宅医療部)

委5-2 症例報告の書き方

佐久間 詠理 (医療法人社団淳友会 わたホームクリニック)

委5-3 がん患者・家族を支えるチームの一員としての薬剤師の責任と使命

大野 朋子 (株式会社akホールディングス 上永谷薬局)

委5-4 これからの在宅緩和ケア対応薬局に求められること～在宅医の立場から～

開田 脩平 (みらい在宅クリニック港南)

学会委員会企画シンポジウム6 次世代に向けて躍動する日本緩和医療薬学会の構築と将来展望

5月26日(日) 9:40~11:10 第9会場 (ベルサール飯田橋駅前 2階 [ROOM 1])

オーガナイザー：徳山 尚吾 (神戸学院大学薬学部臨床薬学研究室)
座長：徳山 尚吾 (神戸学院大学薬学部臨床薬学研究室)

委6-1 日本緩和医療薬学会に対する会員のニーズと期待にどう答えるのか?

徳山 尚吾 (神戸学院大学薬学部臨床薬学研究室)

委6-2 緩和医療を科学することを主眼とした学術団体を常に意識して：
腫瘍神経科学領域の理解と個別化緩和医療の実施

成田 年 (星薬科大学 薬理学研究室/
国立がん研究センター研究所 がん患者病態生理研究ユニット)

委6-3 関連学会連携委員会の活動の現状と今後

武田 泰生 (一般社団法人 日本病院薬剤師会 会長/日本緩和医療薬学会 理事)

委6-4 薬局薬剤師が期待する日本緩和医療薬学会への要望と将来展望

稲葉 一郎 (薬局セントラルファーマシー長嶺)

学会委員会企画シンポジウム7

地域連携委員会企画

～地域緩和ケアネットワーク研修と薬局認証システムの取り組み～

5月26日(日) 13:00～14:30 第5会場(文京シビックセンター 3階「区民会議室A+B」)

オーガナイザー：小林 篤史(在宅医療特化型 カリン薬局)
座長：塩川 満(東京女子医科大学病院 薬剤部)
稲葉 一郎(薬局セントラルファーマシー長嶺)

委7-1 地域における緩和ケアのネットワークを考える

久保田 忍(つばめ薬局)

委7-2 地域緩和ケアネットワーク研修を受け入れる病院側の実際

三松 史野(京都市立病院 薬剤科)

委7-3 在宅緩和ケア対応薬局認証の概要について

前田 桂吾(日本調剤株式会社 在宅医療部)

委7-4 薬局認証制度の必要性

岡本 禎晃(敦賀市立看護大学)

学会委員会企画シンポジウム8

医薬品適正使用と薬物乱用の現状と未来

～これから求められる薬剤師の役割とは～

5月26日(日) 14:50～16:20 第6会場(文京シビックセンター 4階「シルバーホール」)

オーガナイザー：金子 健(慶應義塾大学病院 薬剤部・緩和ケアセンター)
座長：金子 健(慶應義塾大学病院 薬剤部・緩和ケアセンター)
佐伯 朋哉(国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院)

委8-1 薬剤師が知っておくべき日本の乱用問題

田口 真穂(横浜薬科大学 レギュラトリーサイエンス研究室)

委8-2 いま薬剤師として改めて考えるべきオピオイドの適正使用

～『非がん性疼痛やがん患者非がん性慢性疼痛のオピオイド投与』で知っておきたい背景知識～

伊藤 剛貴(草加市立病院 薬剤部)

委8-3 医薬品の適正使用等の医療にかかる知識の普及・啓発における薬剤師の役割 ～学校教育への参画に対する課題と期待～

北垣 邦彦(東京薬科大学 薬学部)

学会タスクフォース企画

学会タスクフォース企画1

いま求められる緩和医療薬学の研究課題と現状

5月25日(土) 10:00~11:30 第2会場(文京シビックセンター 2階「小ホール」)

オーガナイザー：高瀬 久光(順天堂大学医学部附属浦安病院薬剤科)
座長：高瀬 久光(順天堂大学医学部附属浦安病院薬剤科)
内田 まよこ(同志社女子大学)

学会企画1-1 終末期患者の退院前カンファレンスにおける薬薬連携の現状に関するアンケート調査

仁木 一順(大阪大学大学院薬学研究科/市立芦屋病院薬剤科)

学会企画1-2 在宅緩和ケアの均てん化に向けた多職種連携の実態調査

田口 真穂(横浜薬科大学 レギュラトリーサイエンス研究室/
日本緩和医療薬学会 先端学術緩和医療薬学タスクフォース)

学会企画1-3 体動時の突出痛に対する予防的レスキュー薬の有効性に関する検討：
多施設共同後方視的調査(中間報告)

田中 怜(湘南医療大学 薬学部/東京理科大学 薬学部)

学会企画1-4 がん疼痛を認める小児がん患者と家族に対する薬剤師の関わりにおける現状調査
(中間報告)

川尻 雄大(九州大学大学院 薬学研究院 臨床育薬学分野/
日本緩和医療薬学会 先端学術緩和医療薬学タスクフォース)

学会タスクフォース企画2

広域災害への備え ~切れ目のない緩和薬物療法を提供するために~

5月25日(土) 16:00~17:30 第6会場(文京シビックセンター 4階「シルバーホール」)

オーガナイザー：金野 良則(気仙中央薬局)
鈴木 順子(北里大学)
座長：金野 良則(気仙中央薬局)
鈴木 順子(北里大学)

学会企画2-1 大規模災害時の医療提供体制と緩和薬物療法継続の壁

高山 和郎(東京大学医学部附属病院 薬剤部)

学会企画2-2 広域災害発生時における緩和ケアと薬剤師の役割を考えるために
~東日本大震災後の医療現場で起こったこと~

村上 雅彦(岩手県立大船渡病院 副院長兼地域医療福祉連携室長兼緩和医療科長)

学会企画2-3 熊本地震の経験から、地域における災害時の緩和医療提供体制について考える
—薬局薬剤師の立場から—

天方 奉子(薬局セントラルファーマシー長嶺)

学会タスクフォース企画3

10年後の未来を想像して緩和医療薬学の発展を考える

～それぞれの場所・立場で患者さんの苦痛緩和のために働く薬剤師からの 提言～

5月26日(日) 9:40～11:10 第5会場(文京シビックセンター 3階「区民会議室A+B」)

オーガナイザー：石原 正志(岐阜大学医学部附属病院 薬剤部)
佐伯 朋哉(国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院)
座長：上島 健太郎(日本大学医学部附属板橋病院)
大野 朋子(株式会社akホールディングス 上永谷薬局)

学会企画3-1 10年後の未来において患者さんとその家族がより良く生活するためには？
～現代を生きる病院薬剤師が取り組むべきことを考える～

城山 亮輔(東京大学医学部附属病院 薬剤部)

学会企画3-2 在宅緩和ケアへ踏み出すための提案～在宅緩和ケアに携わる立場から～

餅原 弘樹(医療法人社団いぶきの森 のぞみの花クリニック)

学会企画3-3 薬学部で取り組む臨床問題解決型研究
～今後の緩和医療薬学研究を推進する医療人材の養成～

今井 哲司(和歌山県立医科大学薬学部・医療開発薬学研究室)

優秀論文賞受賞講演

優秀論文賞受賞講演

5月26日(日) 13:00～14:00 第2会場(文京シビックセンター 2階「小ホール」)

座長：佐藤 淳也(湘南医療大学 薬学部 薬物治療学研究室)

優秀論文賞受賞講演-1 オピオイド誘発性便秘症患者におけるナルデメジンの便秘改善効果

世古口 拓也(伊勢赤十字病院 薬剤部)

優秀論文賞受賞講演-2 早朝から起床時に増悪する疼痛にクロナゼパム錠が奏効した1症例

杉原 弘記(尾道市立市民病院 薬剤部)

シンポジウム

シンポジウム1

緩和医療を支援する創傷治療の現状と課題

5月25日(土) 10:00~11:30 第3会場(文京シビックセンター 地下1階「多目的室」)

オーガナイザー：花輪 剛久(東京理科大学 薬学部)
廣瀬 香織(東京理科大学薬学部花輪研究室)
座長：花輪 剛久(東京理科大学 薬学部)
百 賢二(昭和大学 統括薬剤部/薬学部病院薬剤学講座)

S1-1 一般的な創傷治癒過程と難治性創傷の成因から緩和医療を考える

入澤 亮吉(東京医科大学皮膚科学分野)

S1-2 在宅医療における皮膚トラブルへ薬剤師が積極的に介入するための工夫

大野 朋子(株式会社akホールディングス 上永谷薬局)

S1-3 創傷治療製剤の現状とこれから

廣瀬 香織(東京理科大学薬学部花輪研究室)

S1-4 緩和医療と薬剤関連褥瘡

溝神 文博(国立長寿医療研究センター 薬剤部/
国立長寿医療研究センター 長寿医療研修部 高齢者薬学教育研修室)

シンポジウム2

オピオイドの薬力学的相互作用における最新知見

5月25日(土) 10:00~11:30 第4会場(文京シビックセンター 3階「会議室1+2」)

オーガナイザー：国分 秀也(湘南医療大学薬学部)
横山 晴子(株式会社アシスト 人事部教育研修課)
座長：国分 秀也(湘南医療大学薬学部)
横山 晴子(株式会社アシスト 人事部教育研修課)

S2-1 オピオイドと他剤併用による薬力学的相互作用について～臨床データ～

国分 秀也(湘南医療大学薬学部臨床薬理学研究室)

S2-2 オピオイドと他剤併用による薬力学的相互作用について～基礎データ～

宮野 加奈子(順天堂大学 薬学部 薬物治療学研究室/
東京慈恵会医科大学 疼痛制御研究講座)

S2-3 症状緩和治療薬による呼吸機能への影響：オピオイドとベンゾジアゼピン

山口 崇(神戸大学医学部附属病院 緩和支援診療科)

S2-4 オピオイドと抗がん薬併用による薬力学的相互作用について

矢野 良一(大阪医科大学薬科大学 薬学部)

シンポジウム3

抗がん剤の副作用を考える –病院・薬局・アカデミアの連携–

5月25日(土) 10:00～11:30 第5会場(文京シビックセンター 3階「区民会議室A+B」)

オーガナイザー：徳山 尚吾(神戸学院大学薬学部臨床薬学研究室)
座長：徳山 尚吾(神戸学院大学薬学部臨床薬学研究室)

S3-1 抗がん剤とその副作用への誤解を解く

勝俣 範之(日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科)

S3-2 病院薬剤師が担う抗がん剤の副作用対策とは? -現状と将来展望-

宮崎 雅之(名古屋大学医学部附属病院薬剤部)

S3-3 がん化学療法に保険薬局薬剤師がどのように関わるのか

坂本 岳志(あけぼの薬局 メディカル店)

S3-4 抗がん剤の副作用(末梢神経障害)に対する新規治療戦略の提言と薬学教育・研究体制の構築

今井 哲司(和歌山県立医科大学薬学部・医療開発薬学研究室)

シンポジウム4

薬剤師が行う、緩和ケアの質の向上・均てん化への取り組み

5月25日(土) 10:00～11:30 第6会場(文京シビックセンター 4階「シルバーホール」)

オーガナイザー：山本 泰大(小牧市民病院 薬局)
笠原 庸子(医療法人秋本クリニック)
座長：山本 泰大(小牧市民病院 薬局)
笠原 庸子(医療法人秋本クリニック)

S4-1 地域でのオピオイド指導・症状評価の統一ならびに情報共有

山本 泰大(小牧市民病院 薬局)

S4-2 薬剤師の視点で探る緩和ケアの研修会 ～がん診療連携拠点病院からのアプローチ～

龍 恵美(長崎大学病院 薬剤部/長崎大学病院 緩和ケアセンター)

S4-3 広島県薬剤師会における緩和ケア薬剤師研修の取り組み

笠原 庸子(医療法人秋本クリニック)

S4-4 在宅療養支援診療所における薬-薬-薬連携にむけた取り組み

天川 雅彦(緩和ケア診療所・いっぽ)

シンポジウム5

看取りから学ぶ ～緩和ケアに関わる薬剤師の真髄とは～

5月25日(土) 10:00～11:30 第9会場(ベルサール飯田橋駅前 2階「ROOM 1」)

オーガナイザー：細谷 治(日本赤十字社医療センター薬剤部)
鳥越 一宏(湘南医療大学 薬学部)
座長：細谷 治(日本赤十字社医療センター薬剤部)
鳥越 一宏(湘南医療大学 薬学部)

S5-1 卒前医学教育における「死の臨床」に関する教育

中村 陽一(東邦大学医学部 臨床腫瘍学講座 緩和医療学分野/
東邦大学医療センター大森病院 緩和ケアセンター)

S5-2 「薬剤師養成課程における看取り教育の課題とは」

鳥越 一宏(湘南医療大学 薬学部)

S5-3 薬剤師にとって看取りとは ～ 近くにあって遠いものと感じていませんか? ～

細谷 治 (日本赤十字社医療センター薬剤部)

S5-4 保険薬剤師から見た終末期医療の風景
～薬を通して人生の幕引きをどう穏やかに迎えるお手伝い出来るか～

原田 寿 (日本調剤株式会社)

シンポジウム6

院内製剤の坐薬を調製する～調製・手続きと課題～

5月25日(土) 10:00～11:30 第10会場 (ベルサール飯田橋駅前 2階 [ROOM 2+3])

オーガナイザー：萬谷 摩美子 (医療法人愛和会 愛和病院 薬局)
座長：萬谷 摩美子 (医療法人愛和会 愛和病院 薬局)
板井 進悟 (金沢大学附属病院薬剤部)

S6-1 院内製剤を適正に使用するための管理体制と坐薬の院内製剤における課題

板井 進悟 (金沢大学附属病院薬剤部)

S6-2 薬物動態試験実施によるエビデンスに基づくミアンセリン坐剤開発の試み

縄田 修一 (昭和大学横浜市北部病院 薬剤部 (病院薬剤学講座))

S6-3 保険薬局における坐剤作製に関するニーズと課題

小林 星太 (かがやきクリニック・かがやき在宅診療所)

S6-4 院内製剤オランザピン坐剤の調製と緩和ケア領域における有用性

櫛引 智子 (特定医療法人社団若林会 湘南中央病院)

シンポジウム7

多死社会の中で、死にゆく人を支える人材 (薬剤師) をどのように育てるか?

5月25日(土) 13:00～14:30 第5会場 (文京シビックセンター 3階 [区民会議室A+B])

オーガナイザー：加藤 剛 ((一社)所沢市薬剤師会)
土井 信幸 (高崎健康福祉大学 薬学部 地域医療薬学研究室)
座長：鈴木 順子 (北里大学)
加藤 剛 ((一社)所沢市薬剤師会)

S7-1 看護教育ではどのように教えているのか

宮崎 菜穂子 (東京都新宿東口検査・相談室)

S7-2 終末期患者が 家族との大切な時間を過ごせることを目指して

藤井 淳 (ノムラ薬局)

S7-3 地域で看取る人(職種)を育てる

池田 里江子 (BFC株式会社 ふれあい薬局 飯能店)

S7-4 薬学教育の中で死にゆく人を支える人材をどのように育てるのか?

土井 信幸 (高崎健康福祉大学 薬学部 地域医療薬学研究室)

シンポジウム 8

地域における口腔支持療法に薬剤師としてできること

ー病院・薬局・歯科連携を目指してー

5月25日(土) 13:00～14:30 第6会場(文京シビックセンター 4階「シルバーホール」)

オーガナイザー：渡邊 真一(松山大学薬学部)
吉田 謙介(東京薬科大学 医薬品安全管理学教室)
座長：杉浦 宗敏(東京薬科大学)
渡邊 真一(松山大学薬学部)

S8-1 口腔支持療法におけるこれまでの取り組みとシンポジウム概要について

吉田 謙介(東京薬科大学医薬品安全管理学教室)

S8-2 保険薬剤師が支えるそして寄り添う口腔ケアマネジメント

米良 千春(日本調剤 中尾薬局)

S8-3 在宅現場で経験した、口腔内トラブルに対する薬剤師の関わり

金 明俊(株式会社クラスターメディカルとまと薬局)

S8-4 歯科と口腔支持療法の実際と用語についてー病院・薬局・歯科連携を目指すにあたりー

黒川 亮(新潟大学医歯学総合病院医療連携口腔管理治療部)

シンポジウム 9

緩和医療における副作用データベース解析：基礎から応用まで

5月25日(土) 13:00～14:30 第10会場(ベルサール飯田橋駅前 2階「ROOM 2+3」)

オーガナイザー：植沢 芳広(明治薬科大学)
細谷 龍一郎(湘南医療大学薬学部 臨床薬剤学研究室)
座長：植沢 芳広(明治薬科大学)
細谷 龍一郎(湘南医療大学薬学部 臨床薬剤学研究室)

S9-1 医薬品副作用データベースを用いたベンダムスチン関連皮膚障害の発現時期の評価

内田 まよこ(同志社女子大学 薬学部 臨床薬学教育研究センター)

S9-2 副作用データベースと核内受容体活性予測システム Toxicity predictor の併用について

細谷 龍一郎(湘南医療大学薬学部 臨床薬剤学研究室)

S9-3 副作用データベースと薬物-遺伝子相互作用ネットワーク分析

中村 光浩(岐阜薬科大学 医薬品情報学研究室)

シンポジウム 10

明日からでもできる！薬剤師が実践する緩和ケアへの非薬物的アプローチ

5月25日(土) 16:00～17:30 第2会場(文京シビックセンター 2階「小ホール」)

オーガナイザー：仁木 一順(大阪大学大学院薬学研究科/市立芦屋病院薬剤科)
岡本 禎晃(敦賀市立看護大学)
座長：仁木 一順(大阪大学大学院薬学研究科/市立芦屋病院薬剤科)
岡本 禎晃(敦賀市立看護大学)

S10-1 医療者が行う音楽での癒し

岡本 禎晃(敦賀市立看護大学)

S10-2 薬剤師のアロマセラピスト奮闘記～アロマとタッチングで癒しを届ける～

白井 牧子(株)BSP たかやま調剤薬局)

S10-3 デジタルテクノロジーを活用した患者・家族への非薬物的アプローチ

仁木 一順 (大阪大学大学院薬学研究科/市立芦屋病院薬剤科)

S10-4 緩和医療におけるスピリチュアルケアの実際

藤井 理恵 (日本基督教団、元淀川キリスト教病院)

シンポジウム11

チームで行うがんサポーターシップケアの臨床研究に向けて

5月25日(土) 16:00~17:30 第4会場 (文京シビックセンター 3階 [会議室1+2])

オーガナイザー: 黒田 誠一郎 (東京大学医科学研究所附属病院)

坂本 岳志 (あけぼの薬局 メディカル店)

座長: 黒田 誠一郎 (東京大学医科学研究所附属病院)

坂本 岳志 (あけぼの薬局 メディカル店)

S11-1 保険薬局で研究の種を見つけ育て花を咲かせよう

中村 俊貴 (あけぼのファーマシーグループあけぼの薬局)

S11-2 病院薬剤師として多職種、多施設との連携により実施できた研究

青山 剛 (公益財団法人 がん研究会有明病院)

S11-3 CINV研究における薬剤師の役割

湊川 紘子 (聖マリアンナ医科大学病院薬剤部)

S11-4 Multidisciplinary-collaborated Cancer Support Team (MCST)による
がんサポーターシップケア臨床研究と大学、院外薬局連携への期待

飯村 洋平 (東京大学医科学研究所附属病院 薬剤部)

シンポジウム12

患者・家族の「ココロ」に寄り添うためのオサエドコロ ～病院・薬局・教育現場の総力で答えるために～

5月25日(土) 16:00~17:30 第5会場 (文京シビックセンター 3階 [区民会議室A+B])

オーガナイザー: 岸本 真 (霧島市立医師会医療センター 薬剤部/九州医療科学大学 医療薬学研究科)

座長: 岸本 真 (霧島市立医師会医療センター 薬剤部/九州医療科学大学 医療薬学研究科)

辻井 聡容 (公立豊岡病院)

S12-1 緩和×精神の介入が必要であった事例から

別所 千枝 (広島県厚生農業協同組合連合会尾道総合病院 薬剤科)

S12-2 「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」と「終末期のココロのケア」

成井 繁 (グッドファーマシー株式会社 湘南あおぞら薬局 藤沢店)

S12-3 在宅医療における薬局薬剤師としての取り組みと大学教育の現場における取り組み

小原 道子 (帝京平成大学 薬学部)

S12-4 患者の求める薬剤師さんとは～患者・家族の立場から～

三好 綾 (NPO法人がんサポートかごしま)

シンポジウム13

緩和医療と栄養の関係性、栄養療法のスペシャリストが贈る現場からのメッセージ Part 2

～がん患者の栄養・薬物療法の実際を知り、チーム医療で活躍できる薬剤師になろう！～

5月25日(土) 16:00～17:30 第10会場(ベルサール飯田橋駅前2階「ROOM 2+3」)

オーガナイザー：上葛 義浩(藤田医科大学岡崎医療センター 薬剤部 医薬品情報管理室)
座長：上葛 義浩(藤田医科大学岡崎医療センター 薬剤部 医薬品情報管理室)
鈴木 慶介(公益社団法人地域医療振興協会 台東区立台東病院・老人保健施設千束)

S13-1 薬剤師が知っておきたい経腸栄養療法

茂木 孝裕(草加市立病院薬剤部)

S13-2 在宅医療における緩和ケア患者への食支援と多職種連携

熊谷 琴美(愛知学院大学健康科学部健康栄養学科)

S13-3 薬剤師が知っておきたい緩和ケア患者の栄養プランニング

吉田 貞夫(ちゅうざん病院 副院長・沖縄大学 客員教授・金城大学 客員教授)

S13-4 多職種協働による集学的治療の実際-がん治療期・終末期のアプローチ-

伊藤 聡一郎(公立陶生病院医療技術局薬剤部)

シンポジウム14

緩和領域における医療安全のふりかえり

5月26日(日) 9:40～11:10 第4会場(文京シビックセンター3階「会議室1+2」)

オーガナイザー：高瀬 久光(順天堂大学医学部附属浦安病院薬剤科)
井手口 直子(帝京平成大学薬学部)
座長：高瀬 久光(順天堂大学医学部附属浦安病院薬剤科)
井手口 直子(帝京平成大学薬学部)

S14-1 トラディショナル・ケアにおける緩和医療の患者安全に必要なこと

舟越 亮寛(医療法人鉄蕉会亀田総合病院)

S14-2 緩和領域の医療安全における病院薬剤師の役割

坪内 清貴(金沢大学附属病院 薬剤部)

S14-3 緩和領域における医療安全のふりかえり～在宅医療の立場から～

佐久間 詠理(医療法人社団淳友会 わたホームクリニック)

S14-4 医療安全とコミュニケーション

井手口 直子(帝京平成大学薬学部)

シンポジウム 15

緩和医療を必要としている患者に Sustainable な連携を行うには ～私たちは、薬局薬剤師・病院薬剤師である前に薬剤師である～

5月26日(日) 9:40～11:10 第6会場(文京シビックセンター 4階「シルバーホール」)

オーガナイザー：石原 正志(岐阜大学医学部附属病院 薬剤部)
岡本 明大(三重大学医学部附属病院 薬剤部)
座長：金子 健(慶應義塾大学病院 薬剤部・緩和ケアセンター)
岡本 明大(三重大学医学部附属病院 薬剤部)

S15-1 なぜ、薬業連携のキーワードが「薬局薬剤師・病院薬剤師である前に薬剤師である」なのか

大東 敏和(広島大学病院 薬剤部)

S15-2 薬局と病院の垣根を越えたシームレスな緩和医療連携の実現に向けて
～緩和ケア領域での課題と解決策～

星野 良(岐阜大学医学部附属病院 薬剤部)

S15-3 在宅医療に移行する際の「薬剤師」間の連携

須藤 宏文(株式会社トゥモファ こうなん薬局)

S15-4 処方医と患者をつなぐために薬局薬剤師が行うべきこと、薬剤師同士に必要な連携とは
なにか?

岡村 瑞穂(V・drug 岐阜大学病院前薬局)

シンポジウム 16

がん支持療法・緩和医療のサイエンス ～基礎研究からの挑戦～

5月26日(日) 9:40～11:10 第8会場(ベルサール飯田橋駅前 1階「HALL A」)

オーガナイザー：中川 貴之(和歌山県立医科大学薬学部病院薬学研究室/附属病院薬剤部)
吉澤 一巳(東京理科大学 薬学部)
座長：中川 貴之(和歌山県立医科大学薬学部病院薬学研究室/附属病院薬剤部)
吉澤 一巳(東京理科大学 薬学部)

S16-1 支持緩和領域の臨床研究:これから求められるもの

全田 貞幹(国立がん研究センター東)

S16-2 がん関連疲労に対する栄養療法の有用性に関する基礎的検討

吉澤 一巳(東京理科大学 薬学部 疾患薬理学研究室)

S16-3 頭頸部がん化学放射治療による口腔粘膜炎の克服を目指して;基礎研究者の挑戦

宮野 加奈子(順天堂大学 薬学部 薬物治療学研究室/
東京慈恵会医科大学 疼痛制御研究講座)

S16-4 がん化学療法に伴う副作用に対するデータ駆動型臨床薬理学研究

石澤 啓介(徳島大学大学院医歯薬学研究部医学域臨床薬理学/徳島大学病院薬剤部/
徳島大学病院総合臨床研究センター)

シンポジウム17

地域で興そう!! 緩和支援療法関連研究会の開催ノウハウとその意義

5月26日(日) 9:40~11:10 第10会場(ベルサール飯田橋駅前2階「ROOM 2+3」)

オーガナイザー:大野 凜太郎(済生会宇都宮病院 薬剤部)
座長:大野 凜太郎(済生会宇都宮病院 薬剤部)
山崎 朋子(地方独立行政法人 栃木県立がんセンター 薬剤部)

S17-1 病院薬剤師が地域研究会に関わる意義

藤村 昭太(自治医科大学附属病院薬剤部)

S17-2 保険薬局薬剤師が地域研究会に関わる意義

眞田 香帆里(ハーモニー薬局)

S17-3 Web症例検討会(Spin-off meeting)の意義

板垣 鈴香(済生会宇都宮病院)

S17-4 地域研究会主導研究の経験

相田 和希(佐野厚生総合病院)

シンポジウム18

これからの在宅における緩和医療の未来について考える ~薬局の現状×薬局に期待すること~

5月26日(日) 13:00~14:30 第4会場(文京シビックセンター3階「会議室1+2」)

オーガナイザー:高山 和郎(東京大学医学部附属病院薬剤部)
黒田 雅子(有限会社 黒田薬局)
座長:笠原 庸子(医療法人秋本クリニック)
高山 和郎(東京大学医学部附属病院薬剤部)

S18-1 切れ目のない在宅緩和ケアの提供のために~病院薬剤師の立場から~

笠原 庸子(医療法人秋本クリニック)

S18-2 地域薬局が在宅における緩和医療を支える存在になるために ~一薬局の挑戦~

黒田 雅子(有限会社 黒田薬局)

S18-3 在宅療養支援診療所薬剤師として見る地域薬局の課題と期待

齊藤 直裕(医療法人社団三育会 新宿ヒロクリニック)

S18-4 訪問活動を通して見える在宅がん緩和ケア ~薬局間連携の必要性について~

佐々木 健(メディアプレイス365訪問薬局)

シンポジウム19

緩和ケアにおける地域連携の課題と展望 ~病院・薬局・診療所の薬剤師の立場から~

5月26日(日) 13:00~14:30 第6会場(文京シビックセンター4階「シルバーホール」)

オーガナイザー:林 隼輔(東京慈恵会医科大学附属柏病院)
中川 隼一(東京慈恵会医科大学附属柏病院)
座長:林 隼輔(東京慈恵会医科大学附属柏病院)
佐久間 詠理(医療法人社団淳友会 わたホームクリニック)

S19-1 外来通院中や在宅移行期の患者に対する病院薬剤師のアプローチについて考える

中川 隼一(東京慈恵会医科大学附属柏病院)

S19-2 緩和ケアにおける地域連携 ～薬局薬剤師にできることはなんだろう

佐藤 由美 (まちほけ薬局名古屋医療センター前店)

S19-3 高度化する在宅医療に求められる、これからの薬薬連携とは

高柳 論也 (株式会社あゆみ あかり薬局)

S19-4 緩和ケアにおける地域連携の課題と展望～在支診薬剤師の立場から～

餅原 弘樹 (医療法人社団いぶきの森 のぞみの花クリニック)

シンポジウム 20

緩和ケアにおける精神的アプローチの方法を考える

5月26日(日) 13:00～14:30 第9会場 (ベルサール飯田橋駅前 2階 [ROOM 1])

オーガナイザー：加藤 剛 (所沢慈光病院薬剤部)
坪内 清貴 (金沢大学附属病院)
座長：坪内 清貴 (金沢大学附属病院)
上野 太佑 (市立札幌病院 薬剤部)

S20-1 睡眠薬を適正に使用するために

鈴木 勉 (湘南医療大学薬学部)

S20-2 緩和領域における気持ちのつらさへのアプローチ

坪内 清貴 (金沢大学附属病院 薬剤部)

S20-3 せん妄患者への抗精神病薬の使用について

上野 太佑 (市立札幌病院 薬剤部)

シンポジウム 21

緩和医療薬学の研究結果を投稿論文に残そう

～論文執筆の意義とそのノウハウ～

5月26日(日) 14:50～16:20 第4会場 (文京シビックセンター 3階 [会議室 1+2])

オーガナイザー：佐藤 淳也 (湘南医療大学 薬学部 薬物治療学研究室)
座長：国分 秀也 (湘南医療大学薬学部)
神林 祐子 (大阪医科薬科大学薬学部)

S21-1 まずは観察研究、見つけ方から論文投稿まで

山田 正実 (大阪府済生会野江病院 薬剤科)

S21-2 投稿すべき症例報告とは、見つけ方から論文投稿まで

佐藤 良太 (丸木記念福祉メディカルセンター)

S21-3 英語論文アレルギーを克服しよう! ～研究成果を英語でまとめて投稿するまで～

鍛冶園 誠 (岡山市立市民病院 薬剤部)

S21-4 心折れずに学術誌でアクセプトを勝ち取る論文構成とは

佐藤 淳也 (湘南医療大学 薬学部 薬物治療学研究室)

シンポジウム 22

在宅がん緩和ケアにおける薬局間連携の推進 ～実績評価に基づいた薬局間連携に向けて～

5月26日(日) 14:50～16:20 第5会場(文京シビックセンター 3階「区民会議室A+B」)

オーガナイザー：串田 一樹(昭和薬科大学)
小林 篤史(在宅医療特化型 カリン薬局)
座長：串田 一樹(昭和薬科大学)
小林 篤史(在宅医療特化型 カリン薬局)

S22-1 在宅で提供する緩和ケアにおける、医療用麻薬提供の必要性と重要性は何か

石垣 泰則(医療法人社団悠輝会コーラルクリニック)

S22-2 在宅療養にシームレスな連携をするために必要な病院薬剤師の責務とは?

伊東 俊雅(東京女子医科大学附属足立医療センター薬剤部/がん包括診療部緩和ケア室)

S22-3 在宅がん緩和ケアにおける地域での薬局連携体制の構築に向けて

白石 丈也(有限会社メディックス白石 けや木薬局)

S22-4 在宅がん緩和ケアにおける24時間体制の医薬品提供
～薬局の機能分化と薬局間連携の推進に向けて～

串田 一樹(昭和薬科大学)

ワークショップ

ワークショップ1 かんわcafe

5月25日(土) 16:00～18:00 第3会場(文京シビックセンター 地下1階「多目的室」)

オーガナイザー：金子 健(慶應義塾大学病院 薬剤部・緩和ケアセンター)
伊東 俊雅(東京女子医科大学附属足立医療センター薬剤部/がん包括診療部緩和ケア室)
座長：金子 健(慶應義塾大学病院 薬剤部・緩和ケアセンター)
伊東 俊雅(東京女子医科大学附属足立医療センター薬剤部/がん包括診療部緩和ケア室)
ファシリテーター：加藤 あゆみ(日本医科大学付属病院)
岸田 悦子(日本医科大学付属病院 薬剤部・化学療法科)
慶 元箕(東京女子医科大学附属足立医療センター 薬剤部)
佐久間 詠理(医療法人社団淳友会 わたホームクリニック)
周治 由香里(東京女子医科大学附属足立医療センター)
長久保 久仁子(ミキ薬局田端店)
林 隼輔(東京慈恵会医科大学附属柏病院)
前田 桂吾(日本調剤株式会社 在宅医療部)
結城 奈美(東京都済生会中央病院)
大野 朋子(株式会社akホールディングス 上永谷薬局)

区民公開講座

区民公開講座

薬物乱用防止活動についてー「ダメ。ゼッタイ。」の普及運動を考えるー

5月26日(日) 14:50～16:20 第2会場(文京シビックセンター 2階「小ホール」)

座長: 塩川 満(東京女子医科大学病院 薬剤部)
森 友久(星薬科大学 薬理学研究室)

区民公開講座-1 依存症治療の現場からみた薬物乱用防止活動に必要なこと

成瀬 暢也(埼玉県立精神医療センター)

区民公開講座-2 「ダメ。ゼッタイ。」普及運動と医療用麻薬の適正使用

鈴木 勉(湘南医療大学薬学部)

メディカルセミナー

メディカルセミナー1

オピオイド誘発性便秘の克服へ向けて～緩下剤の効果的な使用ガイド～

5月25日(土) 11:50～12:40 第2会場(文京シビックセンター 2階「小ホール」)

座長: 木村 健(兵庫医科大学病院 薬剤部)

演者: 石原 正志(岐阜大学医学部附属病院 薬剤部)

マグミット製薬株式会社

メディカルセミナー2

薬剤師外来におけるがん疼痛マネジメント～がん薬物療法中のかかわり～

5月25日(土) 11:50～12:40 第3会場(文京シビックセンター 地下1階「多目的室」)

座長: 山村 康比古(東京都立駒込病院 薬剤科)

演者: 奥田 泰考(自治医科大学附属病院 薬剤部)

日本化薬株式会社

メディカルセミナー3

がん患者の精神心理的ケアにおける向精神薬の最新事情

5月25日(土) 11:50～12:40 第6会場(文京シビックセンター 4階「シルバーホール」)

座長: 国分 秀也(湘南医療大学 薬学部)

演者: 上村 恵一(国家公務員共済組合連合会 斗南病院 精神科)

株式会社アインホールディングス

メディカルセミナー4

生活を支える疼痛緩和～二刀流の緩和ケア医が提案！ 病院でも在宅でも薬剤師が患者の生活を支えるテクニック～

5月25日(土) 11:50～12:40 第8会場(ベルサール飯田橋駅前1階「HALL A」)

座長: 小林 篤史(在宅医療特化型 カリン薬局)

演者: 廣橋 猛(永寿総合病院緩和ケア科/がん診療支援・緩和ケアセンター)

第一三共株式会社

メディカルセミナー5

アセトアミノフェンの知的利用 ～痛みの構造を考えて薬の副作用から患者を守る～

5月25日(土) 11:50～12:40 第9会場(ベルサール飯田橋駅前2階「ROOM 1」)

座長: 岡本 禎晃(敦賀市立看護大学)

演者: 金井 昭文(北里大学医学部新世紀医療開発センター・疼痛学)

あゆみ製薬株式会社

メディカルセミナー6

がん治療における薬剤師の立ち位置 ～患者アウトカムを最大限に引き出すマインド～

5月25日(土) 11:50～12:40 第10会場(ベルサール飯田橋駅前2階「ROOM 2+3」)

座長: 大塚 進(日本大学医学部附属板橋病院 薬剤部)

演者: 葉山 達也(日本大学医学部附属板橋病院 薬剤部)

東和薬品株式会社

メディカルセミナー7

認知症の治療とケア

5月26日(日) 11:50～12:40 第3会場(文京シビックセンター 地下1階「多目的室」)

座長: 川久保 孝(東京慈恵会医科大学附属病院 薬剤部)

演者: 舘野 周(日本医科大学大学院医学研究科 精神・行動医学分野)

エーザイ株式会社

メディカルセミナー8

小児在宅緩和ケア

5月26日(日) 11:50～12:40 第4会場(文京シビックセンター 3階「会議室1+2」)

座長: 赤羽 三貴(国立研究開発法人 国立成育医療研究センター薬剤部)

演者: 前田 浩利(医療法人財団はるたか会)

日本調剤株式会社

メディカルセミナー9 緩和医療に携わる薬剤師さんへのメッセージ

5月26日(日) 11:50~12:40 第6会場(文京シビックセンター 4階「シルバーホール」)

座長: 細谷 治 (日本赤十字社医療センター 薬剤部)

演者: 上野 敬人 (株式会社ユヤマ 学術部)

株式会社ユヤマ

メディカルセミナー10 かんわCafé ー薬薬連携、点から線へー

5月26日(日) 11:50~12:40 第8会場(ベルサール飯田橋駅前 1階「HALL A」)

座長: 金子 健 (慶応義塾大学病院 薬剤部・緩和ケアセンター)

演者: 辻井 聡容 (公立豊岡病院 薬剤部)

山田 正実 (社会福祉法人恩賜財団大阪府済生会野江病院 薬剤科)

塩野義製薬株式会社

メディカルセミナー11 生薬の多成分がマルチにはたらき効果的に作用する漢方薬 ーがん患者のQOL向上と漢方薬ー

5月26日(日) 11:50~12:40 第9会場(ベルサール飯田橋駅前 2階「ROOM 1」)

座長: 伊東 俊雅 (東京女子医科大学附属足立医療センター 薬剤部)

演者: 上園 保仁 (東京慈恵会医科大学 疼痛制御研究講座/
国立がん研究センター東病院 支持・緩和研究開発支援室)

株式会社ツムラ

メディカルセミナー12 がんと腸内細菌

5月26日(日) 11:50~12:40 第10会場(ベルサール飯田橋駅前 2階「ROOM 2+3」)

座長: 龍 恵美 (長崎大学病院 薬剤部)

演者: 山田 岳史 (日本医科大学 消化器外科・遺伝診療科)

ミヤリサン製薬株式会社

デザートセミナー

デザートセミナー1 高齢がん患者に対する個別化医療を目指して ー高齢者機能評価の実践と連携体制についてー

5月25日(土) 14:55~15:40 第8会場(ベルサール飯田橋駅前 1階「HALL A」)

座長: 笠原 寿郎 (日本医科大学付属病院 呼吸器内科)

演者: 津端 由佳里 (島根大学医学部附属病院 呼吸器・化学療法内科)

中外製薬株式会社

デザートセミナー2 がん患者の痛みを攻略する！

5月25日（土） 14:55～15:40 第9会場（ベルサール飯田橋駅前 2階 [ROOM 1]）

座 長：高瀬 久光（順天堂大学医学部附属浦安病院 薬剤科）

演 者：里見 絵理子（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科、順天堂大学大学院 緩和医療学研究室）

久光製薬株式会社

デザートセミナー3 症例から学ぶメサドンの使い方～難治性疼痛への効果的な使用方法～

5月25日（土） 14:55～15:40 第10会場（ベルサール飯田橋駅前 2階 [ROOM 2+3]）

座 長：塩川 満（東京女子医科大学病院 薬剤部）

演 者：山代 亜紀子（洛和会音羽病院 緩和ケア内科）

帝國製薬株式会社 / テルモ株式会社

□頭発表優秀演題候補

□頭発表優秀演題候補 1

5月26日(日) 9:40~10:50 第7会場(文京シビックセンター 5階「区民会議室C」)

座長: 柏原 由佳(昭和大学江東豊洲病院)
北中 純一(兵庫医科大学)

優〇1-1 がん疼痛によるがん治療抵抗性の修飾: 腫瘍微小環境における知覚神経由来疼痛関連因子が乳がん増悪化に与える影響

○佐野 咲蘭^{1,2)}、眞壁 一志^{1,2,3)}、成田 道子²⁾、瀧瀬 示穂^{1,2)}、川村 菜緒^{1,2)}、
飯塚 慎^{1,2)}、須田 雪明^{1,2)}、南雲 康行²⁾、葛巻 直子^{1,2)}、里見 絵理子³⁾、成田 年^{1,2)}

¹⁾ 星薬科大学 薬理学研究室、²⁾ 国立がん研究センター 研究所 がん患者病態生理研究分野、
³⁾ 国立がん研究センター 中央病院 緩和医療科

優〇1-2 神経-がん-マクロファージの細胞間相互作用に着目した腫瘍免疫応答の変容解析

○福岡 由莉香^{1,2)}、眞壁 一志^{1,2)}、成田 道子²⁾、瀧瀬 示穂^{1,2)}、川村 菜緒^{1,2)}、
飯塚 慎^{1,2)}、須田 雪明^{1,2)}、南雲 康行²⁾、葛巻 直子^{1,2)}、成田 年^{1,2)}

¹⁾ 星薬科大学 薬理学研究室、²⁾ 国立がん研究センター 研究所 がん患者病態生理研究分野

優〇1-3 大規模データベースを用いたアセトアミノフェンおよびNSAIDsの長期使用と腎機能変化の検討

○藤原 崇志
倉敷中央病院 臨床研究支援センター

優〇1-4 免疫チェックポイント阻害剤の投与がオピオイド製剤の鎮痛効果に及ぼす影響

○炭本 隆宏、田中 遼大、村上 優子、龍田 涼佑、伊東 弘樹
大分大学医学部附属病院 薬剤部

優〇1-5 タペンタドールまたはトラマドールと強オピオイド鎮痛薬の併用による鎮痛効果に関する検討

○日下部 鮎子^{1,3)}、村上 真喜^{2,3)}、前田 直大^{1,3)}、鶴谷 勝実¹⁾、和智 純子^{3,4)}

¹⁾ 小樽市立病院 薬剤部、²⁾ 小樽市立病院 看護部、³⁾ 小樽市立病院 緩和ケアチーム、⁴⁾ 小樽市立病院 麻酔科

優〇1-6 オピオイド使用患者におけるせん妄の発症リスクに便秘や下剤の併用が与える影響

○宮本 朋佳¹⁾、高橋 佳苗²⁾、中村 豪志³⁾、清水 忠⁴⁾、細見 光一⁵⁾、木村 健³⁾、
桂木 聡子¹⁾

¹⁾ 兵庫医科大学 薬学部 臨床薬学分野、²⁾ 兵庫医大 医 医療統計学、³⁾ 兵庫医大病院薬剤部、⁴⁾ 兵庫医大 薬 臨床医薬品化学、⁵⁾ 近畿大 薬 医薬品情報学分野

□頭発表優秀演題候補2

5月26日(日) 10:55~12:15 第7会場(文京シビックセンター5階「区民会議室C」)

座長: 田中 育子(市立芦屋病院)
矢野 琢也(住友別子病院)

優O2-1 マウス骨格筋におけるシスプラチン誘発筋萎縮時の筋力低下に伴うPGC-1 α のダウンレギュレーション

○酒井 寛泰¹⁾、佐藤 健¹⁾、吉田 聡史¹⁾、宮内 優¹⁾、今 理紗子¹⁾、五十嵐 信智¹⁾、
千葉 義彦²⁾、細江 智夫¹⁾

¹⁾ 星薬科大学 薬学部 生体分子薬理学研究室、²⁾ 星薬科大学 薬学部 分子生物学研究室

優O2-2 当院のEnfortumab Vedotinの副作用出現状況と薬剤師による薬学的介入

○志田 優璃¹⁾、杉山 弘樹¹⁾、中田 淳也¹⁾、高田 真子¹⁾、臼井 幸男²⁾、高橋 薫平²⁾、
酒井 浩介²⁾、原田 晴司¹⁾

¹⁾ 静岡市立清水病院 薬剤部、²⁾ 静岡市立清水病院 泌尿器科

優O2-3 セツキシマブに起因するInfusion Reactionに関する多機関共同後方視的観察研究

○中村 和代^{1,3)}、嘉屋 道裕^{1,3)}、小野田 千晴^{2,3)}、大石 大祐³⁾、北島 真利子³⁾、
祖父江 彰³⁾、山中 義裕³⁾、高屋敷 奈々³⁾、宮本 康敬³⁾、清水 幹裕^{3,4)}、
小田切 圭^{3,4)}

¹⁾ 静岡県立総合病院 薬剤部、²⁾ 焼津市立総合病院 薬剤部、³⁾ PVC study 3、⁴⁾ 浜松医科大学医学部附属病院 臨床研究センター

優O2-4 がん悪液質症状発現担がんマウスの脂肪組織における新規がん悪液質関連遺伝子Serca2bの経時的解析

○笠井 智香、佐藤 翔、並木 賢人、小畑 凜果、横島 駿、吉澤 一巳
東京理科大学 薬学部 薬学科

優O2-5 緩和ケアチームの業務効率改善を目指したオピオイド投与量計算ツールの作成

○杉田 望月^{1,2)}、柴 俊輔^{1,2)}、山田 桃子^{1,2)}、田代 匠^{1,2)}、森下 拓哉¹⁾、宮澤 憲治¹⁾、
福島 信一郎¹⁾、小室 龍太郎^{2,3)}、坂倉 喜代美^{2,4)}、高木 亮¹⁾

¹⁾ 国立病院機構 金沢医療センター 薬剤部、²⁾ 国立病院機構 金沢医療センター 緩和ケアチーム、³⁾ 国立病院機構 金沢医療センター 緩和ケア内科、⁴⁾ 国立病院機構 金沢医療センター 看護部

優O2-6 へき地在宅緩和ケアへの対応 ICTを用いた宇和島市見守りサービス導入事例

○山内 隆史¹⁾、大江 仁志²⁾、岩村 正裕²⁾、近藤 光紀³⁾、大野 哲³⁾、井上 貴博¹⁾

¹⁾ 有限会社アポトライ ダテ薬局、²⁾ 宇和島市地域包括支援センター、³⁾ 株式会社 日本郵便四国支社

優O2-7 術後疼痛管理チームによる術後疼痛緩和薬物療法への介入に関する実態調査

○宮原 強¹⁾、三浦 大介²⁾、小川 哲史³⁾、満岡 大貴³⁾、草葉 一友¹⁾

¹⁾ 佐賀県医療センター好生館 薬剤部、²⁾ 佐賀県医療センター好生館 麻酔科、³⁾ 佐賀県医療センター好生館 看護部

□頭発表

□頭発表1 チーム医療1

5月25日(土) 10:30~11:45 第7会場(文京シビックセンター5階「区民会議室C」)

座長: 岡野 聡(日本調剤弘前薬局)
脇田 雅子(ませ調剤薬局)

○1-1 緩和ケアチーム(PCT)を有していない急性期病院で、膀胱がん患者の苦痛緩和に難渋し、多職種で緩和ケアに取り組んだ1症例

○赤星 一恵
大分岡病院 薬剤部

○1-2 緩和ケア診療加算算定における薬剤師の役割

○中村 拓紀¹⁾、三上 勇¹⁾、柴田 麻由子²⁾、阿部 明子⁵⁾、高山 知穂⁶⁾、高橋 由加里⁶⁾、高松 大吉⁶⁾、大畑 美齡⁴⁾、有川 洋祐³⁾、金田一 成子¹⁾
¹⁾ あおもり協立病院 薬局、²⁾ あおもり協立病院 看護部、³⁾ あおもり協立病院 内科、⁴⁾ あおもり協立病院 精神科、⁵⁾ あおもり協立病院 栄養科、⁶⁾ あおもり協立病院 リハビリテーション科

○1-3 当院における薬剤科内緩和ケアユニットシステムへの取り組みとその役割について 第三報

○矢嶋 美樹、小関 崇文、杉浦 健一、角田 斐子、鈴木 由佳、瀬井 由紀、小杉 英恵、田 紗永子、山本 加奈子、横山 翔一、大貫 敏明
船橋総合病院 薬剤科

○1-4 当院における緩和ケアチームの立ち上げと薬剤師の関わり

○高橋 怜史¹⁾、寺島 里枝¹⁾、渡部 麻木²⁾、増尾 昌則¹⁾、仲鉢 英夫¹⁾、木村 信廉³⁾
¹⁾ 湘南藤沢徳洲会病院 薬剤部、²⁾ 湘南藤沢徳洲会病院 看護部、³⁾ 湘南藤沢徳洲会病院 痛みセンター

○1-5 多発性骨髄腫の重篤な下痢の原因がランソプラゾール長期投与による膠原繊維性大腸炎(Collagenous Colitis)であった1例

○丸田 知佳、白幡 瑞穂、吉本 鉄介、久田 純生、江口 真澄
独立行政法人地域医療機能推進機構 中京病院

○1-6 薬剤師主導による緩和ケアチームの立ち上げと現状と課題

○細川 まりな¹⁾、大久保 利成¹⁾、和田 可奈恵²⁾、二川 憲昭³⁾
¹⁾ イムス札幌消化器中央総合病院 薬剤部、²⁾ イムス札幌消化器中央総合病院 看護部、³⁾ イムス札幌消化器中央総合病院 消化器内科

口頭発表2 疼痛管理1

5月25日(土) 11:50~12:40 第7会場(文京シビックセンター5階「区民会議室C」)

座長: 酒井 寛泰(星薬科大学 生体分子薬理学研究室)
志田 敏宏(山形大学医学部附属病院)

O2-1 メサドンの鎮痛換算比に関する検討

○則武 千波夜、橋本 直弥、下村 一景、村田 史子、内田 幸作
愛知県がんセンター 薬剤部

O2-2 当院におけるメサドンから他のオピオイド鎮痛薬に切り替えた際の投与量の換算比に関する検討

○永田 圭耶¹⁾、津田 陽子¹⁾、北村 和香子¹⁾、高橋 慧¹⁾、越川 貴史²⁾
¹⁾ 医療法人社団杏順会 越川病院 薬剤部、²⁾ 医療法人社団杏順会 越川病院 一般内科/消化器科/緩和ケア科

O2-3 メサドン導入時における用量決定に要する時間の検討

○橋本 直弥、則武 千波夜、下村 一景、村田 史子、内田 幸作
愛知県がんセンター 薬剤部

O2-4 オピオイド注射薬にてタイトレーションし疼痛コントロール良好となり自宅退院できた1例

○岩田 佳之、川島 美智子
地方独立行政法人総合病院国保旭中央病院 薬剤局

口頭発表3 がん薬物療法関連、そのほか

5月25日(土) 13:00~14:00 第7会場(文京シビックセンター5階「区民会議室C」)

座長: 川出 義浩(名古屋市立大学)
竹迫 秀和(鹿児島市立病院 薬剤部)

O3-1 ニボルマブirAEの重症筋無力症が「片側」眼瞼下垂で発症し、筋炎・球麻痺を伴って急速進行し不幸な転帰をとった頬粘膜がんの1例: 早期発見と治療情報提供の必要性

○吉本 鉄介、久田 純生、山本 圭一、木下 弘幸、森田 佐知、江口 真澄、大坪 充、仁紫 了爾
JCHO中京病院

O3-2 転移性骨腫瘍へのデノスマブ使用患者における疼痛ならびに生存期間へ喫煙が及ぼす影響

○江草 徳幸、白井 敦史、吉田 玲、岡野 愛子、檜垣 麻友美、藤原 俊輔、埋橋 賢吾、向井 一樹、平井 俊明、磯貝 明彦、中島 恵子
広島県厚生農業協同組合連合会 広島総合病院 薬剤部

O3-3 当院緩和ケア病棟におけるミダゾラムによる鎮静の実態調査

○福島 智子¹⁾、有江 宏樹¹⁾、瀬名波 暢子¹⁾、鳥井 祥子¹⁾、田村 訓子¹⁾、谷 大輔¹⁾、濱田 美加⁴⁾、小木曾 照子⁴⁾、吉村 千恵^{2,3)}、端 裕之²⁾、小林 政彦¹⁾
¹⁾ 大阪赤十字病院 薬剤部、²⁾ 同 緩和ケア科、³⁾ 同 呼吸器内科、⁴⁾ 同 看護部

○3-4 抗がん剤治療を中止したがん終末期患者における抗菌薬投与開始に関連する因子の特定

○城山 亮輔^{1,2)}、油原 直乃^{1,2)}、鷗澤 友里合^{1,2)}、山口 諒¹⁾、山本 武人¹⁾、高田 龍平¹⁾

¹⁾ 東京大学医学部附属病院 薬剤部、²⁾ 東京大学医学部附属病院 緩和ケア診療部

○3-5 令和6年能登半島地震災害に対する医療支援活動 ～長期化する避難所生活で生じる様々な苦痛症状の緩和への関与～

○加藤 あゆみ¹⁾、須賀 涼太郎¹⁾、小村 彩乃¹⁾、澁谷 淳介¹⁾、恩田 秀賢¹⁾、
西田 伸一²⁾、伊勢 雄也¹⁾

¹⁾ 日本医科大学付属病院、²⁾ 東京都医師会

□頭発表4 チーム医療2

5月25日(土) 14:05～15:05 第7会場(文京シビックセンター 5階「区民会議室C」)

座長：宮田 広樹(日本調剤株式会社 教育情報部)
和田 紀子(昭和大学病院附属東病院)

○4-1 外来化学療法室におけるオピオイド初回導入時に嘔吐歴のある患者への再導入に関する症例報告

○岸田 悦子^{1,2)}、田中 弘人^{1,2)}、井ノ口 岳洋^{1,2)}、久保村 優^{1,2)}、吉川 聡美²⁾、
村上 美聖^{1,2)}、庄司 美侑^{1,2)}、伊勢 雄也²⁾、笠原 寿郎¹⁾

¹⁾ 日本医科大学付属病院 化学療法科、²⁾ 日本医科大学付属病院 薬剤部

○4-2 クリーンベンチ未設置薬局が対応したオキシコドン持続皮下投与中の1例

○村井 扶、谷前 徳信
株式会社ゆそえる あけぼの薬局

○4-3 医療用麻薬使用を見据えた看護・介護職員向けの研修会の実施により施設での看取りができた肺腺がんの1症例

○手嶋 無限、平田 大治、上田 展也
株式会社 ONEDERS アイビー薬局

○4-4 薬剤師が緩和ケア外来に同席することの有用性の検討

○村田 朋美、山崎 彬史、赤瀬 博文、森本 茂文
神戸市立西神戸医療センター

○4-5 外来におけるオピオイド鎮痛薬使用患者に対しての薬剤師の取り組み

○矢部 佑香里¹⁾、藤原 真亜子¹⁾、山名 真由¹⁾、草信 晴美^{1,2)}、川西 仁美¹⁾、
監物 英男¹⁾

¹⁾ 川崎医科大学総合医療センター 薬剤部、²⁾ 川崎医科大学高齢者医療センター 薬剤部

口頭発表5 チーム医療3

5月25日(土) 16:00~16:50 第7会場(文京シビックセンター5階「区民会議室C」)

座長: 橋本 百世(市立芦屋病院)
平山 武司(北里大学北里研究所病院(北里大学))

O5-1 院内緩和ケアマニュアル改訂後アンケートからの考察 ~地域医療圏への配布、よりよい連携を目指して~

○伊東 真由子、用傳 恵美、水本 孝子、阿部 摩耶、河本 真理子、徳留 あかね、
栗田 誠子、野村 美穂、濱岡 雅代、小沢 博和、松並 展輝

JA山口厚生連 周東総合病院 緩和ケアチーム委員会

O5-2 できるだけ最期まで自宅で過ごしたい気持ちに応える仕組み作り

○池田 里江子¹⁾、鬼澤 信之²⁾、舟橋 司³⁾、阿部 昇吾⁴⁾、海老原 幸子⁵⁾

¹⁾ ふれあい薬局 飯能店、²⁾ 杏クリニック、³⁾ K & F訪問看護ステーション、⁴⁾ 特別養護老人ホーム あしかり園、⁵⁾ 総合相談センター名栗園

O5-3 緩和ケア病棟を生存退院する患者への退院時薬剤情報提供書

○高子 優子¹⁾、細見 真世¹⁾、伊藤 伸哉²⁾、岡山 幸子³⁾、奥本 龍夫⁴⁾、澁谷 奈穂¹⁾、
若松 雄太¹⁾、近藤 万友美¹⁾、正置 耕一¹⁾、吉岡 睦展¹⁾

¹⁾ 宝塚市立病院 薬剤部、²⁾ 同 患者サポートセンター、³⁾ 同 看護部、⁴⁾ 同 緩和ケア内科

O5-4 保険薬局における医療用麻薬の取り扱い状況の実態調査

○伊藤 剛貴¹⁾、下山 加奈恵¹⁾、鈴木 友宜²⁾、木村 直也¹⁾

¹⁾ 草加市立病院 薬剤部、²⁾ 草加市立病院 緩和ケア科

口頭発表6 鎮痛薬の副作用

5月25日(土) 16:55~17:55 第7会場(文京シビックセンター5階「区民会議室C」)

座長: 岩根 裕紀(京都桂病院)
森 理保(徳島市民病院)

O6-1 オピオイドスイッチング時におけるナルデメジン導入による下痢発現に及ぼす危険因子の探索

○原 伸輔^{1,2)}、池村 健治¹⁾、藤井 恵^{1,2)}、天野 晃滋²⁾、須田 万理²⁾、大野 由美子²⁾、
西尾 敦美²⁾、林 みずほ²⁾、松田 陽一²⁾、山本 智也¹⁾、奥田 真弘¹⁾

¹⁾ 大阪大学 医学部 附属病院 薬剤部、²⁾ 大阪大学 医学部 附属病院 緩和医療センター
がん緩和ケアチーム

O6-2 ヒドロモルフォン製剤使用中のがん患者に対するナルデメジントシル酸塩の使用状況調査

○淡路 健作、吉田 真人、菅谷 量俊、林 太祐

日本医科大学多摩永山病院 薬剤部

O6-3 がん患者における強オピオイド導入時のオピオイド誘発性便秘の発生状況

○原田 桂作^{1,4,5)}、石井 隆義¹⁾、山内 健太郎¹⁾、宮崎 晶¹⁾、野口 純也^{3,4)}、
山吉 隆友^{2,4)}、小山 敏広⁵⁾

¹⁾ 北九州市立八幡病院診療支援部薬剤課、²⁾ 北九州市立八幡病院外科、³⁾ 北九州市立八幡病院消化器外科、⁴⁾ 北九州市立八幡病院消化器肝臓病センター、⁵⁾ 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

○6-4 ペンタゾシン注射液依存症が疑われる患者への薬剤師介入の1症例

○後藤 綾、小宮 孝俊、牧野 智美、福江 弘子、石川 智子、樋口 恭子
久留米大学病院 薬剤部

○6-5 セロトニン症候群が大建中湯とトアラセット併用で発症し、自律神経症状が主体で更年期障害と誤解されていた1例

○松田 燦徳、吉本 鉄介、久田 純生、江口 真澄
JCHO中京病院 緩和ケアチーム

□頭発表7 疼痛管理2

5月26日(日) 13:00~14:00 第7会場(文京シビックセンター5階「区民会議室C」)

座長: 佐野 元彦(星薬科大学)
八本 久仁子(医療法人社団曙会シムラ病院)

○7-1 メサドンを低用量で先行オピオイドに併用した102症例の検討

○佐藤 哲観^{1,4)}、大野 茂樹¹⁾、川村 泰一¹⁾、福富 晃¹⁾、金島 正幸¹⁾、石川 ゆりか¹⁾、
川上 恭平¹⁾、飯田 由子^{2,4,5)}、西堀 雄一朗^{2,4)}、佐藤 哲^{3,4)}、賀茂 佳子^{3,4)}

¹⁾ 静岡県立静岡がんセンター 緩和医療科、²⁾ 静岡県立静岡がんセンター 呼吸器内科、³⁾ 静岡県立静岡がんセンター 薬剤部、⁴⁾ 静岡県立静岡がんセンター 緩和ケアチーム、⁵⁾ 日本大学医学部 内科学系呼吸器内科分野

○7-2 在宅医療における終末期ALS患者の呼吸苦に対してモルヒネの持続注射を行なった一症例

○渡部 雄紀¹⁾、藤原 正三²⁾、水野 裕一²⁾
¹⁾ 株式会社メディカルガーデン ガーデン薬局、²⁾ 湘南台スマイルクリニック

○7-3 フェントステープ使用患者におけるレスキュー薬の使用と転帰に関する実態調査

○菅原 佳音¹⁾、二瓶 哲^{1,2)}、菅原 大貴¹⁾、米澤 裕司³⁾、佐藤 文彦⁴⁾、朝賀 純一^{1,2)}、
工藤 賢三^{1,2)}

¹⁾ 岩手医科大学附属病院 薬剤部、²⁾ 岩手医科大学附属病院 薬学部 臨床腫瘍薬学講座 臨床薬剤学分野、³⁾ 西和賀すみれ薬局、⁴⁾ 三田記念病院 薬剤科

○7-4 在宅患者において毎日の患者状況の確認、薬剤管理が良好な疼痛管理に繋がった一症例

○近井 優斗¹⁾、松本 真梨子¹⁾、三橋 巧²⁾、白府 礼子¹⁾、森 文子¹⁾、西島 香江¹⁾
¹⁾ クオール株式会社 サンビレッジ調剤薬局、²⁾ クオール株式会社 クオール薬局札幌東区役所前店

○7-5 神経ブロック前後におけるオピオイド投与量の変化

○高橋 早織¹⁾、岩井 大¹⁾、野村 まなみ²⁾
¹⁾ 医療法人徳洲会 東京西徳洲会病院 薬剤部、²⁾ 医療法人徳洲会 東京西徳洲会病院 疼痛緩和内科

口頭発表8 チーム医療4

5月26日(日) 14:05～14:55 第7会場(文京シビックセンター5階「区民会議室C」)

座長: 荒井 幸子(横浜市立大学附属病院)
芝崎 真裕(星薬科大学)

○8-1 家族が覚悟を決めるための支援～本人の希望を叶えるために～

○岡野 聡、神 陽太、上羽 勝也
日本調剤 弘前 薬局

○8-2 らいふ薬局によるハブ薬局体制構築～在宅協力薬局制度の活用とその成果～

○丸一 泰雅¹⁾、中川 友之³⁾、草場 大作¹⁾、折戸 真澄⁴⁾、高橋 広将²⁾、荒川 太一³⁾
¹⁾ 北陸クオール株式会社 若葉らいふ薬局、²⁾ 太平寺らいふ薬局、³⁾ 泉野出町らいふ薬局、⁴⁾ 正田らいふ薬局

○8-3 在宅医療におけるレスキュー薬の適正使用への取り組み ～医療者間の説明統一に向けての患者指導用パンフレット作製～

○山崎 健吾、菊池 俊、宮本 智子、増子 ひとみ、猪刈 良祐、田口 圭三
リジョン薬局 厚別

○8-4 石川県で在宅医療に使用されるPCAポンプの変遷に関する研究

○荒川 太一、丸一 泰雅、草場 大作、高橋 広将、中川 友之、折戸 真澄
北陸クオール株式会社

口頭発表9 緩和医療薬教育

5月26日(日) 15:00～15:50 第7会場(文京シビックセンター5階「区民会議室C」)

座長: 加藤 英明(湘南医療大学)
松本 高広(東邦大学医療センター大森病院)

○9-1 九州山口沖縄の薬剤師を対象とした教育プログラムがもたらす緩和ケアへの理解度向上と行動変化

○山田 真裕¹⁾、内田 まやこ²⁾、葉田 昌生³⁾、因間 大悟⁴⁾、有吉 俊二⁴⁾、井上 章治⁴⁾、
神村 英利^{4,5)}、原口 亨⁴⁾
¹⁾ 北九州市立医療センター 薬剤課、²⁾ 同志社女子大学 薬学部、³⁾ JCHO南海医療センター
薬剤部、⁴⁾ 公益社団法人福岡県薬剤師会、⁵⁾ 福岡大学病院 薬剤部

○9-2 質の高い薬物治療を目指した病棟薬剤師間の相互監査と当院におけるがん関連相互監査の実態

○柏原 由佳^{1,2)}、伊藤 綾花^{1,2)}、伊波 樹^{1,2)}、菊池 菜々^{1,2)}、小泉 朱里^{1,2)}、
越塚 宏美^{1,2)}、野口 拓馬^{1,2)}、前田 絵里加^{1,2)}、喜田 昌記^{1,2)}、渡邊 亜矢子^{1,2)}
¹⁾ 昭和大学江東豊洲病院 薬剤部、²⁾ 昭和大学 薬学部 病院薬剤学講座

○9-3 実務実習終了後の薬学生に対する緩和医療と医療用麻薬についての意識調査

○森 宏幸、山崎 直樹
大阪市立総合医療センター

○畑中 真理¹⁾、谷之木 佑歌¹⁾、田崎 智也¹⁾、千阪 智美¹⁾、三輪 明子¹⁾、西村 亜希²⁾、平原 康寿¹⁾、岩切 智美¹⁾、池田 龍二¹⁾

¹⁾ 宮崎大学 医学部 附属病院 薬剤部、²⁾ 宮崎大学 医学部 附属病院 看護部

ポスター発表優秀演題候補

ポスター発表優秀演題候補 1

5月25日(土) 16:00~17:00 ポスター会場(文京シビックセンター 1階「展示室1・2」)

優P1-1 選択的GSK3阻害薬による実験的モルヒネ退薬症状の緩和

○北中 純一¹⁾、北中 順恵^{1,2)}、仲井 聖典¹⁾、藤井 舞²⁾、濱名 貴大¹⁾、松田 健太郎¹⁾、津嶋 祐一郎²⁾、湯瀬 祥¹⁾、富田 和男³⁾、五十嵐 健人³⁾、佐藤 友昭³⁾

¹⁾ 兵庫医科大学 薬学部 医療薬学科 薬物中毒治療学研究室、²⁾ 兵庫医科大学 医学部 薬理学講座、³⁾ 鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 歯科応用薬理学分野

優P1-2 院内製剤:ミアンセリン坐剤およびペロスピロン坐剤における経時的安定性および保管法の検討

○田中 怜、市川 智恵、佐藤 淳也

湘南医療大学 薬学部 医療薬学科

優P1-3 新規開発ジクロフェナクナトリウム経皮吸収型製剤貼付に伴う熱型変化の2症例

○福田 梨乃¹⁾、沼田 千賀子¹⁾、竹下 治範¹⁾、猪野 彩¹⁾、岡本 禎晃²⁾

¹⁾ 神戸薬科大学 総合教育研究センター、²⁾ 市立芦屋病院 薬剤科

優P1-4 先行オピオイドへのメサドンadd-on使用の安全性・有効性評価

○阿曾沼 伸一^{1,4)}、鹿田 康紀⁵⁾、由井 陽一¹⁾、二神 咲子¹⁾、稲田 みなみ^{1,4)}、椎村 翔太^{1,4)}、藤井 美砂^{3,4)}、梶原 美絵^{3,4)}、野田 陽子^{3,4)}、落合 利彰^{2,4)}、槇林 智子¹⁾

¹⁾ 福岡県済生会福岡総合病院 薬剤部、²⁾ 福岡県済生会福岡総合病院 消化管内科、³⁾ 福岡県済生会福岡総合病院 看護部、⁴⁾ 福岡県済生会福岡総合病院 がん治療サポートチーム、⁵⁾ 国見病院

優P1-5 難治性疼痛を訴える患者に対し、メサドン錠とオキシコドン徐放錠併用からヒドロモルフォン注へ変更後、メサドン錠への切替えが行われた一例

○黒田 祥嗣¹⁾、藤井 仁志²⁾、新田 香澄³⁾、柵山 敬司¹⁾

¹⁾ 岩手県立久慈病院 薬剤科、²⁾ 岩手県立久慈病院 外科、³⁾ 岩手県立久慈病院 看護科

優P1-6 頭頸部癌RT/CRT中の口腔粘膜炎による疼痛に2%モルヒネ水含嗽が著効した経験

○石川 寛¹⁾、濱内 諭²⁾、田中 怜³⁾、増島 広幸¹⁾、杉山 洋介¹⁾、横野 友亮¹⁾、田口 諒¹⁾、前野 由依¹⁾、篠 道弘¹⁾

¹⁾ 静岡県立静岡がんセンター 薬剤部、²⁾ 静岡県立静岡がんセンター 消化器内科、³⁾ 湘南医療大学 薬学部

優P1-7 フェンタニル持続静注漸減中止により離脱症状を認めた末梢血幹細胞移植後の患児の1例

○有馬 太陽^{1,2)}、菅原 英輝¹⁾、満尾 明恵¹⁾、福司山 典子¹⁾、寺菌 英之^{1,2)}
1) 鹿児島大学病院 薬剤部、2) 鹿児島大学 医歯学総合研究科 薬物動態制御学

優P1-8 当院における医療用麻薬の使用状況調査

○浅野 志津¹⁾、笠原 なつみ¹⁾、甲元 大樹¹⁾、森 英樹²⁾
1) 岡山赤十字玉野病院 薬剤部、2) 岡山赤十字病院 薬剤部

優P1-9 呼吸困難の緩和を目的としたopioid switchingの有効性

○出口 裕子¹⁾、山本 泰大¹⁾、田中 志遠²⁾、浦野 公彦²⁾、大北 淳也³⁾、加藤 栄助³⁾、
松浦 克彦²⁾
1) 小牧市民病院 薬局、2) 愛知学院大学 薬学部、3) 小牧市民病院 緩和ケア科

優P1-10 メサドンから他のオピオイド鎮痛薬へのスイッチングにより自宅退院が可能となった1症例

○後藤 咲香、石原 正志、星野 良、船渡 三結、小林 亮、鈴木 昭夫
岐阜大学医学部附属病院 薬剤部

ポスター発表優秀演題候補2

5月25日(土) 17:00~18:00 ポスター会場(文京シビックセンター1階「展示室1・2」)

優P2-1 オキサリプラチン含有化学療法後の遅発性悪心・嘔吐に対するパロノセトロンとアプレピタントの効果の比較

○松田 璃沙¹⁾、田中 亮²⁾、森本 健幹¹⁾、上柳 汐果¹⁾、市原 英則³⁾、松村 亜耶¹⁾、
小田 亮介¹⁾、丸山 直岳¹⁾、土井 敏行¹⁾
1) 独立行政法人 国立病院機構 京都医療センター、2) 市立池田病院、3) 独立行政法人 国立病院機構 東近江総合医療センター

優P2-2 局所的がん細胞増殖による脳機能変容と遠心性異常応答によるがん病態の悪性化

○垣内 万菜香^{1,2)}、須田 雪明^{1,2)}、成田 道子²⁾、續木 祐海¹⁾、松山 富貴子^{1,3)}、
濱田 祐輔^{1,2)}、葛巻 直子^{1,2)}、成田 年^{1,2)}
1) 星薬科大学 薬理学研究室、2) 国立がん研究センター研究所 がん患者病態生理研究分野、
3) 日本小動物医療センター

優P2-3 緩和ケア担当の薬剤師を外来に配置したら、疼痛コントロール不良での入院患者を減少させられるか

○松本 陽介¹⁾、澤井 朝子¹⁾、樋口 なな子¹⁾、小泉 亜耶子²⁾、小園 典子³⁾、
桂川 美幸³⁾、松本 利恵¹⁾
1) 社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院 薬剤部、2) 社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院 総合内科、3) 社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院 看護部

優P2-4 浸出液の多い皮膚潰瘍に対しWOCナースと連携しQOLを維持できた乳がんの1症例

○木村 歩未^{1,2,3)}、竹山 恵理夏^{1,2,3)}、伊東 健一^{1,2)}、秦 洋一^{1,3,4)}
1) JCHO 宮崎江南病院、2) JCHO 宮崎江南病院薬剤部、3) JCHO 宮崎江南病院緩和ケアチーム 委員会、4) JCHO 宮崎江南病院医局

優P2-5 薬学部実務実習生を対象とした緩和薬物療法提案能力の向上を目的とするアカデミック・ディテリング教育の実施調査報告

○近江 一太¹⁾、田中 怜²⁾、大矢 智則¹⁾、栃木 恵里¹⁾、吉田 智浩¹⁾、佐藤 淳也²⁾

¹⁾ 国際医療福祉大学病院 薬剤部、²⁾ 湘南医療大学 薬学部

優P2-6 がんについて学べるカードゲーム「メディカルテット」によるがん教育の実施とその教育効果について

○濱部 あみ¹⁾、妹川 晴香¹⁾、吉田 優太¹⁾、河内 正二¹⁾、沼田 千賀子¹⁾、國正 淳一¹⁾、藤本 佳昭²⁾、横山 郁子¹⁾

¹⁾ 神戸薬科大学、²⁾ 神戸大学附属中等教育学校

優P2-7 中高生を対象としたがん教育推進のためのカード学習教材「メディカルテット」の開発

○妹川 晴香¹⁾、濱部 あみ¹⁾、吉田 優太¹⁾、河内 正二¹⁾、沼田 千賀子¹⁾、國正 淳一¹⁾、藤本 佳昭²⁾、横山 郁子¹⁾

¹⁾ 神戸薬科大学、²⁾ 神戸大学附属中等教育学校

優P2-8 病院薬剤師による小学生への「がん教育」

○橋間 伸行^{1,2)}、奥田 智子¹⁾、依藤 健之介¹⁾

¹⁾ 神鋼記念病院 薬剤室、²⁾ 神戸市学校薬剤師会

ポスター発表

ポスター発表1 緩和医療薬教育

5月25日(土) 16:00~17:00 ポスター会場(文京シビックセンター1階「展示室1・2」)

P1-1 栃木県における緩和医療の発展を目指す栃木県緩和支援療法研究会(T-PAS)の活動

○加納 亜由子、相田 和希、梅田 鈴香、眞田 香帆里、下田 耕司、外山 智章、藤村 昭太、山崎 朋子、大野 凜太郎、佐藤 淳也

栃木県緩和支援療法研究会(T-PAS)世話人会

P1-2 当院における地域緩和ケアネットワーク研修の取り組み

○畑 加奈子¹⁾、萩原 里美¹⁾、久保田 忍²⁾、稲葉 一郎³⁾、村本 慎悟¹⁾、細瀧 喜代志⁴⁾、佐藤 彰洋⁵⁾、田宮 貞宏⁵⁾

¹⁾ くまもと県北病院 薬剤部、²⁾ つばめ薬局、³⁾ 株式会社ハートフェルト セントラルファーマシー長嶺、⁴⁾ くまもと県北病院 総合外科、⁵⁾ くまもと県北病院 総合診療科

P1-3 当院における医療用麻薬の安全使用・管理に向けて
～緩和薬物療法認定薬剤師・医薬品安全管理者・麻薬管理者としての多角的な関り～

○中島 瑞紀

南医療生活協同組合 総合病院 南生協病院 薬剤科

P1-4 調剤薬局主導の医療機器講習の有用性について

○隈元 正太郎、富吉 紘史、楠元 俊英

すずな調剤薬局

P1-5 オンラインを利用した多施設共同による薬学実務実習に対する緩和医療教育

○形部 文寛^{1,2)}、永井 良^{1,2)}、中村 孝佑^{2,3)}、藤田 憲一^{2,3)}、吹譚 靖子^{2,4)}、章 勇気^{2,4)}、林 俊吾^{2,5)}

¹⁾ 独立行政法人 国立病院機構 山口宇部医療センター、²⁾ 中国四国地区国立病院薬剤師会緩和ケア委員会、³⁾ 福山医療センター、⁴⁾ 浜田医療センター、⁵⁾ 関門医療センター

P1-6 薬学実務実習生への緩和医療の講義およびロールプレイ実習の評価

○中村 孝佑^{1,5)}、藤田 憲一^{1,5)}、林 俊吾^{2,5)}、吹譚 靖子^{3,5)}、章 勇気^{3,5)}、永井 良^{4,5)}、形部 文寛^{4,5)}

¹⁾ 福山医療センター、²⁾ 関門医療センター、³⁾ 浜田医療センター、⁴⁾ 山口宇部医療センター、⁵⁾ 中国四国地区国立病院薬剤師会緩和ケア委員会

P1-7 薬学実務実習生を対象とした多施設共同オンライン緩和医療教育に関するアンケート調査

○吹譚 靖子¹⁾、中村 孝佑^{2,5)}、藤田 憲一^{2,5)}、林 俊吾^{3,5)}、章 勇気^{1,5)}、永井 良^{4,5)}、形部 文寛^{4,5)}

¹⁾ 浜田医療センター、²⁾ 福山医療センター、³⁾ 関門医療センター、⁴⁾ 山口宇部医療センター、⁵⁾ 中国四国地区国立病院薬剤師会緩和ケア委員会

P1-8 当院における緩和ケアの現状(緩和薬物療法認定薬剤師の役割)と今後の課題

○稲見 正幸¹⁾、齋藤 和悦²⁾

¹⁾ 石橋総合病院 薬剤部、²⁾ 済生会宇都宮病院 薬剤部

ポスター発表1 がん薬物療法の副作用1

5月25日(土) 16:00~17:00 ポスター会場(文京シビックセンター1階「展示室1・2」)

P2-1 咽喉がんの部位別における制吐剤使用状況の検討

○鳥山 陽子、諫見 圭佑、杉尾 由希子、上之園 咲、山形 真一
独立行政法人 国立病院機構 鹿児島医療センター

P2-2 ゲムシタビン単独療法における制吐療法の実態調査

○畠山 智明、鈴木 拓也、遠藤 美央、玉木 慎也
KKR札幌医療センター

P2-3 免疫チェックポイント阻害剤関連好中球減少症が疑われた尿路上皮癌の1例

○中村 朋瑛¹⁾、田中 弘人^{1,2)}、井ノ口 岳洋^{1,2)}、久保村 優^{1,2)}、輪湖 哲也^{1,2)}、伊勢 雄也¹⁾

¹⁾ 日本医科大学付属病院 薬剤部、²⁾ 日本医科大学付属病院 化学療法科

ポスター発表2 がんに関連する症状緩和

5月25日(土) 17:00~18:00 ポスター会場(文京シビックセンター1階「展示室1・2」)

P3-1 右耳下腺頸部腫瘍部位の臭気、出血、滲出液に対しモーズ軟膏と亜鉛華でんぷんを使用し改善した1症例の報告

○林 美香¹⁾、須崎 貴徳¹⁾、佐藤 理恵²⁾、杉野 絹代²⁾、小阪 捺美²⁾、浅井 理恵²⁾、桐山 友里香²⁾、伊藤 典子²⁾、松本 格³⁾、杉本 舞子⁴⁾、石澤 正剛³⁾

¹⁾ 海津市医師会病院 薬剤室、²⁾ 海津市医師会病院 看護部、³⁾ 海津市医師会病院 内科、⁴⁾ 海津市医師会病院 外科

P3-2 院内製剤（メトロニダゾール親水クリーム＋アドレナリン液）の運用後の効果と副作用を調査

○尾形 美絵、近藤 和宏、羽生 智宏、新関 みどり、長澤 欣弘、瀧内 瑛輔、
中村 慎一郎、田村 和彦
大分県済生会日田病院 薬剤部

P3-3 皮膚転移痛に対してリドカイン混合ワセリンが有効であった3例

○近藤 祥平、藤井 稚奈、秦 いづみ、北山 智美、今出 雅博、後藤 昌希、笠江 勝、
小林 佑佳、服部 利恵、南平 結衣、児玉 秀治
三重県立総合医療センター 薬剤部

P3-4 緩和ケア病棟のニーズに応じた院内製剤1.25%インドメタシンスプレー液の保管方法の改良

○萬谷 摩美子¹⁾、黒屋 謙吾¹⁾、山田 泰史²⁾
¹⁾ 医療法人愛和会 愛和病院、²⁾ 医療法人愛和会 愛和病院 診療部

P3-5 がん患者の薬剤関連顎骨壊死の管理
—患者のQOLをどのように保つことができるか MRONJの検証—

○相澤 康子¹⁾、三宅 智²⁾
¹⁾ 地域医療振興協会 横須賀市立市民病院 薬剤部、²⁾ 地域医療振興協会 横須賀市立市民病院
歯科口腔外科

P3-6 mGPSを利用したアナモレリン塩酸塩錠による有効性の探索

○諸橋 賢人、土屋 裕伴、新井 亘
AMG 上尾中央総合病院

P3-7 当院におけるアナモレリンの使用実態調査

○草野 由記美、下田 苑実、米田 栄子、生田 賢人、佐藤 璃紗、清水 浩幸
鳥取赤十字病院 薬剤部

P3-8 当院におけるアナモレリン塩酸塩錠の使用状況調査

○天野 敬大、宮口 聖総、佐藤 拓行、野口 宣之
春日部中央総合病院

P3-9 アナモレリンの使用における緩和ケアチーム介入効果の検討

○勝田 雄太^{1,5)}、松崎 貴志¹⁾、塩尻 智恵子^{2,5)}、島田 明穂^{3,5)}、大島 隆一^{4,5)}
¹⁾ 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 薬剤部、²⁾ 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 看護部、³⁾ 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 栄養部、⁴⁾ 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 消化器一般外科、⁵⁾ 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 緩和ケアチーム

P3-10 島根県立中央病院におけるアナモレリン塩酸塩錠の適正使用調査

○陶山 裕平、山崎 奈緒美、安食 健一、園山 智宏、横手 克樹
島根県立中央病院 薬剤局

P3-11 アナモレリン長期投与により体重増加につながった1例

○荘山 咲智子、大谷 拓也、千葉 愛珠、浦川 聖菜、岩川 悟、室岡 邦彦、高瀬 久光
順天堂大学医学部附属浦安病院

P3-12 アナモレリン塩酸塩錠によるがん悪液質患者に対する有用性に影響する要因解析

○荒木 恵里佳¹⁾、岸本 大裕²⁾、井上 桃歌¹⁾、星 加織²⁾、清海 杏奈¹⁾、吉田 謙介¹⁾、
田中 嘉一²⁾、杉浦 宗敏¹⁾

¹⁾ 東京薬科大学薬学部医薬品安全管理学教室、²⁾ 千葉県済生会習志野病院

P3-13 がん悪液質に対するアナモレリンの使用状況と継続に関連する因子の検討

○児玉 暁人、先崎 郁美、駒居 真紀子、勝浦 正人

市立吹田市民病院 薬剤部

P3-14 当院がん患者のせん妄症状に対するブロンサンテープ使用経験の記述

○柏木 栄一^{1,2)}、吉野 和穂^{2,3)}、竹内 文一^{2,4)}、佐野 彩華^{1,2)}、川ノ辺 恵^{1,2)}、
長谷川 渉^{2,4)}、種市 亜澄^{2,5)}、小倉 里美^{2,5)}、田中 大¹⁾

¹⁾ 小田原市立病院 薬剤科、²⁾ 小田原市立病院 がんサポートチーム、³⁾ 小田原市立病院 緩和ケア科、⁴⁾ 小田原市立病院 心身医療科、⁵⁾ 小田原市立病院 看護部

ポスター発表1 がんに関連する症状緩和

5月25日(土) 16:00~17:00 ポスター会場(文京シビックセンター1階「展示室1・2」)

P3-15 精神症状に対する対処によりケミカルコーピングを回避し、オピオイドを漸減中止できた症例

○高屋 麻由^{1,2)}、澤村 忠輝^{1,2)}、畝 佳子^{1,2)}、宮城 暢子^{2,3)}、坂野 祐司^{2,4)}、森田 幸代^{2,5)}

¹⁾ 国立病院機構 東近江総合医療センター 薬剤部、²⁾ 国立病院機構 東近江総合医療センター 緩和ケアチーム、³⁾ 国立病院機構 東近江総合医療センター 看護部、⁴⁾ 国立病院機構 東近江総合医療センター 泌尿器科、⁵⁾ 滋賀医科大学 腫瘍センター

P3-16 薬剤師の持続的な介入により疼痛の原因究明に寄与できた悪性リンパ腫の1例

○村上 美聖^{1,2)}、久保村 優^{1,2)}、井ノ口 岳洋^{1,2)}、庄司 美侑^{1,2)}、田中 弘人^{1,2)}、
吉川 聡美¹⁾、岸田 悦子^{1,2)}、輪湖 哲也¹⁾、伊勢 雄也¹⁾、脇田 知志³⁾、笠原 寿郎²⁾

¹⁾ 日本医科大学付属病院 薬剤部、²⁾ 日本医科大学付属病院 化学療法科、³⁾ 日本医科大学付属病院 血液内科

P3-17 デノスマブによる顎骨壊死後に投与間隔延長で再投与した一例

○仲野 宏紀、村地 康、高垣 佳史

地方独立行政法人 市立東大阪医療センター 薬剤部

P3-18 ハロペリドール持続皮下注射によりアカシジアが疑われた症例

○永津 由貴¹⁾、添田 早貴¹⁾、柏木 亜子¹⁾、友田 政昭²⁾

¹⁾ 友田病院 薬剤科、²⁾ 友田病院 外科

P3-19 当院におけるヒドロモルフォン製剤の呼吸困難に対する使用状況調査

○松矢 宏実¹⁾、古賀 佳奈¹⁾、野尻 陽菜¹⁾、向井 妙子¹⁾、峠 正義²⁾、船木 康二郎²⁾

¹⁾ 富山県立中央病院 薬剤部、²⁾ 富山県立中央病院 緩和ケア科

ポスター発表2 がんに関連する症状緩和

5月25日(土) 17:00~18:00 ポスター会場(文京シビックセンター1階「展示室1・2」)

P3-20 がん終末期患者の悪心嘔吐症状に対するブロンセリン経皮吸収型製剤使用症例の後方視的調査

○藤永 仁美¹⁾、國東 佑美¹⁾、田中 雅子¹⁾、高橋 知孝¹⁾、汐谷 恵¹⁾、木村 好江²⁾、
福井 由美子¹⁾

¹⁾ 兵庫県立がんセンター 薬剤部、²⁾ 兵庫県立がんセンター 緩和ケア内科

P3-21 オランザピンが癌化学療法以外の悪心嘔吐に対し有効だった一例

○小酒井 仁実、八木 仁史、高田 宏文、河井 良智
独立行政法人労働者健康安全機構関東労災病院 薬剤部

P3-22 呼吸困難感に対してエチゾラム錠の増量が奏功した一例

○小林 麻衣子^{1,2)}、細井 尚人²⁾、森 裕子²⁾、三沢 唯²⁾、森田 あゆ美²⁾、内藤 光海²⁾、
安藤 千聡¹⁾

¹⁾ 社会医療法人社団さつき会 袖ヶ浦さつき台病院 薬剤部、²⁾ 社会医療法人社団さつき会 袖ヶ浦さつき台病院 緩和ケアチーム

P3-23 ヒドロモルフォンの導入が自宅退院につながった悪性褐色細胞腫の1例

○富吉 博也¹⁾、岡本 実加¹⁾、脇谷 由美子¹⁾、山岡 彩¹⁾、小原 弘之²⁾

¹⁾ 廿日市記念病院 技術部 臨床薬剤科、²⁾ 廿日市記念病院 診療部 内科

P3-24 ケミカルコーピング等のがん患者の疼痛に影響を与える因子を分析し介入した一例

○高山 俊輔、佐藤 美樹、横田 真希、牧野 好倫
埼玉医科大学国際医療センター

P3-25 呼吸困難に対するモルヒネ持続注射セット処方の有効性と安全性に関する調査

○平木 祥子^{1,4)}、長井 宏文¹⁾、西川 美香子^{1,4)}、中田 早音^{1,4)}、道淵 路子^{2,4)}、
本間 恵子^{3,4)}、政氏 藤玄¹⁾

¹⁾ 金沢医科大学病院 薬剤部、²⁾ 金沢医科大学病院 看護部、³⁾ 金沢医科大学 麻酔科学、⁴⁾ 金沢医科大学病院 緩和ケアチーム

ポスター発表1 疼痛管理・疼痛評価

5月25日(土) 16:00~17:00 ポスター会場(文京シビックセンター1階「展示室1・2」)

P4-1 直腸がん根治術によりがん疼痛に対して導入したオピオイドから離脱できた症例

○櫻井 まみ、矢島 領、加藤 あゆみ、伊勢 雄也
日本医科大学付属病院 薬剤部

P4-2 在宅医療における終末期の苦痛緩和を目的としたミダゾラム持続静注による鎮静

○里見 眞知子¹⁾、阿部 泰之^{1,2)}

¹⁾ だいだいの丘クリニック、²⁾ 旭川医科大学

P4-3 痛み日記を活用することで円滑な疼痛コントロールが可能となった一症例

○土井 武司¹⁾、山本 雅裕²⁾、伊津田 知樹³⁾、藤田 あゆみ⁴⁾、廣田 悠真¹⁾、
福田 拓矢¹⁾、桑野 芽¹⁾

¹⁾ スギ薬局 大津富士見台店、²⁾ スギ薬局 渥美病院店、³⁾ スギ薬局 新金岡店、⁴⁾ 人材開発部

P4-4 当院におけるプレガバリンとミロガバリンの投与量の調査と薬剤師の介入方法の検討

○関根 貴之、猪野 達也、長谷川 匡史、池上 幸子

埼玉県済生会川口総合病院 薬剤部

P4-5 当院のメサドン使用状況～地域との連携～

○宮武 望、長谷川 喜一、大田 隆代、中野 祐介、城戸 愛美、佃 博

和泉市立総合医療センター

P4-6 疼痛緩和領域で用いられる内服オピオイド鎮痛薬の経管投与への適応可否に関する調査

○岸本 真、徳永 楓果、石渡 美樹、米田 仁保、中村 杏果、森永 崇史、後藤 若菜、
北園 幸大、屋敷 大輔、長ヶ原 琢磨、荻尾 夕起子

霧島市立医師会医療センター 薬剤部

P4-7 がん治療による完全奏効（CR）後のオピオイド減量に難渋した症例

○山東 真寿美^{1,3)}、川本 良子^{2,3)}、菅 詩歩^{1,3)}、目堅 詩乃^{1,3)}、富士 芳美^{1,3)}、
植田 有希^{1,3)}、口分田 章典^{1,3)}、網野 玉美^{2,3)}、藤田 敬子¹⁾、吉田 洋^{3,4)}

¹⁾ 大阪急性期・総合医療センター 薬局、²⁾ 大阪急性期・総合医療センター 看護部、³⁾ 大阪急性期・総合医療センター 緩和ケアチーム、⁴⁾ 大阪急性期・総合医療センター 緩和ケア科

P4-8 疼痛アセスメントツールの選定と導入 その後の評価について

○酒井 政幸、伊藤 比香里、早川 友里、吉村 洋樹、羽毛田 洋平、野村 雅子、
沖山 葉子

丸子中央病院

ポスター発表2 薬物動態・相互作用

5月25日（土） 17:00～18:00 ポスター会場（文京シビックセンター 1階「展示室1・2」）

P5-1 閉塞性動脈硬化症の慢性疼痛に対して疼痛コントロールを行い、デュロキセチン及び
トラマドールによる躁状態を引き起こした一例

○汐見 史織^{1,2)}、喜田 昌記^{1,2)}、関戸 匡恵^{1,2)}、黒川 裕李^{1,2)}、高野 清美³⁾、
小城原 傑⁴⁾、長井 友子⁵⁾、柏原 由佳^{1,2)}

¹⁾ 昭和大学 薬学部 病院薬剤学講座、²⁾ 昭和大学江東豊洲病院 薬剤部、³⁾ 昭和大学江東豊洲病院 看護部、⁴⁾ 昭和大学江東豊洲病院 消化器センター、⁵⁾ 昭和大学医学部 精神医学講座

P5-2 当院外来化学療法室においてイリノテカンとオピオイドを併用している患者に対する、
治療への影響に関する調査。

○萩野 晃生^{1,2)}、佐藤 美紀²⁾、築地 清子²⁾、堀江 聖子²⁾、澤田 あゆみ²⁾、
市川 ひろみ²⁾、佐賀 真希子²⁾、佐々木 全英²⁾、山田 恭吾²⁾

¹⁾ 一部事務組合下北医療センター むつ総合病院 薬剤科、²⁾ 一部事務組合下北医療センター むつ総合病院 緩和ケアチーム

P5-3 オピオイド使用患者の多剤併用による潜在的薬物相互作用に関する実態調査

○鈴木 訓史¹⁾、高橋 紀子²⁾、櫻井 睦美³⁾、田島 つかさ³⁾、高橋 通規³⁾

¹⁾ 国立病院機構 仙台医療センター 薬剤部、²⁾ 国立病院機構 仙台医療センター 看護部、

³⁾ 国立病院機構 仙台医療センター 緩和ケア内科

P5-4 ナルデメジン併用により、オキシコドンの鎮痛効果減弱を生じた肺癌脳転移の一症例

○木下 史一、星野 剛史、柳下 昂太

順天堂大学医学部附属静岡病院 薬剤科

P5-5 胆汁酸トランスポーター阻害薬エロビキシバットの併用が経口ヒドロモルフォンによる鎮痛効果に与える影響の検討

○深井 雄太¹⁾、田中 晃佑¹⁾、西村 祐香¹⁾、野口 唯香¹⁾、高田 慎也¹⁾、山岸 佳代¹⁾、
松山 哲晃²⁾、橋下 浩紀¹⁾

¹⁾ 国立病院機構 北海道がんセンター 薬剤部、²⁾ 国立病院機構 北海道がんセンター 緩和ケア内科

ポスター発表2 その他

5月25日(土) 17:00~18:00 ポスター会場(文京シビックセンター 1階「展示室1・2」)

P6-1 緩和ケア病棟入院料(薬剤費包括算定)が薬物療法の質に及ぼす影響についてのアンケート調査

○朝日 信一

あそかビハーラ病院 薬剤部

P6-2 緩和ケア病棟における薬剤師の処方中止・中断の代行による廃棄薬削減の取り組み

○船越 康太¹⁾、吉田 要芽¹⁾、瀧井 康²⁾、後藤 渉¹⁾

¹⁾ 製鉄記念八幡病院 薬剤部、²⁾ 製鉄記念八幡病院 緩和ケア内科

P6-3 COVID-19禍における「オンラインヨガ教室と茶話会」の活動報告

○川村 舞¹⁾、木川 寛子²⁾、岩崎 創史³⁾、山蔭 道明³⁾

¹⁾ 札幌医科大学 アイン・ニトリ緩和医療学・支持療法学講座、²⁾ 札幌医科大学附属病院 医療連携福祉センター、³⁾ 札幌医科大学附属病院 麻酔科

P6-4 PCA(Patient Controlled Analgesia)ポンプカセット内の細菌汚染調査

○山本 麻千子¹⁾、柴田 嘉洋¹⁾、大山 由紀子²⁾

¹⁾ 医療法人財団 健和会 みさと健和病院 薬剤課、²⁾ 医療法人財団 健和会 みさと健和病院 細菌検査室

P6-5 姫路医療センター緩和ケア病棟におけるポリファーマシーの実態調査

○西村 陽子、田中 麻理子、長門石 光司、明石 直子、竹松 茂樹、福田 利明

国立病院機構 姫路医療センター

P6-6 がん終末期ポリファーマシー状態からの向精神薬の急激な断薬により悪性症候群を発症した1例

○殿垣 聖子¹⁾、細川 舞¹⁾、相原 直彦²⁾

¹⁾ 医療法人協和会 千里中央病院 薬剤科、²⁾ 医療法人協和会 千里中央病院 緩和ケア科

P6-7 緩和ケアチームの介入によって海外旅行を支援できた一例

○下口谷 貴¹⁾、鈴木 智子¹⁾、佐々木 美穂²⁾、原口 文彦³⁾、藤井 達郎¹⁾、井藤 達也¹⁾

¹⁾ JCHO札幌北辰病院 薬剤部、²⁾ JCHO札幌北辰病院 看護部、³⁾ JCHO札幌北辰病院 麻酔科

ポスター発表1 チーム医療

5月25日(土) 16:00~17:00 ポスター会場(文京シビックセンター1階「展示室1・2」)

P7-1 緩和ケアチームにおける薬剤師による処方提案の内容と採択率に関する調査

○上柳 汐果、松村 亜耶、松田 璃沙、森本 健幹、八瀬 恵理子、小田 亮介、丸山 直岳、土井 敏行

国立病院機構 京都医療センター 薬剤部

P7-2 緩和ケアチームにおける非がん患者への介入状況について

○神原 諒^{1,5)}、杉江 礼子^{2,5)}、早川 詩乃^{1,5)}、堀居 侑子^{3,5)}、太田 哲政^{3,5)}、内藤 英人^{4,5)}、津田 真^{3,5)}、早川 太郎¹⁾

¹⁾ 地方独立行政法人 市立大津市民病院 薬剤部、²⁾ 地方独立行政法人 市立大津市民病院 患者相談支援室、³⁾ 地方独立行政法人 市立大津市民病院 緩和ケア科、⁴⁾ 地方独立行政法人 市立大津市民病院 精神・心療内科、⁵⁾ 地方独立行政法人 市立大津市民病院 緩和ケアチーム

P7-3 当院における緩和ケアチーム薬剤師の現状と課題

○石田 華奈子、後藤 大輔、山田 裕之

国家公務員共済組合連合会 横浜栄共済病院 薬剤部

P7-4 緩和ケア専門医のいない中小病院における緩和ケアチームの取り組みについて

○馬場 亮一、岡田 昌之

光晴会病院 薬剤科

P7-5 末期心不全患者の終末期の苦痛に対して緩和ケアチームで介入した1症例～心不全患者の倦怠感に対する副腎皮質ステロイドの可能性～

○松村 亜耶¹⁾、森本 健幹¹⁾、上柳 汐果¹⁾、松田 璃沙¹⁾、八瀬 恵理子¹⁾、小田 亮介¹⁾、丸山 直岳¹⁾、益永 信豊³⁾、木下 多愛²⁾、土井 敏行¹⁾

¹⁾ 独立行政法人国立病院機構 京都医療センター 薬剤部、²⁾ 独立行政法人国立病院機構 京都医療センター 緩和ケア科、³⁾ 独立行政法人国立病院機構 京都医療センター 循環器内科

P7-6 病院移転統合における緩和ケアチーム立ち上げと今後の課題について

○小牧 佐知子¹⁾、沢 仁美¹⁾、細見 健悟¹⁾、林谷 奈津子²⁾、小野 まゆ³⁾、杉本 圭司⁴⁾、西島 薫^{3,5)}、浅井 浩之¹⁾

¹⁾ 川西市立総合医療センター 薬剤科、²⁾ 川西市立総合医療センター 看護部、³⁾ 川西市立総合医療センター 麻酔科、⁴⁾ 川西市立総合医療センター 外科、⁵⁾ 第二協立病院 緩和ケア内科

P7-7 オピオイド導入ツール公開後のがん疼痛治療の動向に関する実態調査

○藤井 恵^{1,2)}、原 伸輔^{1,2)}、天野 晃滋²⁾、須田 万理²⁾、和田 民樹²⁾、大野 由美子²⁾、西尾 敦美²⁾、林 みずほ²⁾、松田 陽一²⁾、有持 潤子¹⁾、奥田 真弘¹⁾

¹⁾ 大阪大学 医学部 附属病院 薬剤部、²⁾ 大阪大学 医学部 附属病院 緩和医療センター がん緩和ケアチーム

P7-8 医療不信に伴いオピオイドを拒否する患者への緩和ケア介入で疼痛緩和が得られた一例

○加茂 章弘¹⁾、笹村 眞由美²⁾、天願 博道²⁾、東 雅也²⁾、境井 暁²⁾、矢口 武廣¹⁾、
玉城 啓太³⁾、山下 克也¹⁾

¹⁾ 国立療養所 沖縄愛楽園 薬剤科、²⁾ 国立療養所 沖縄愛楽園 緩和ケアチーム、³⁾ 国立療養所 沖縄愛楽園 内科

P7-9 当院における新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行した後の緩和ケアラウンドの再構築

○山田 麻里子¹⁾、佐藤 千明²⁾、山田 涼子³⁾、西村 考代³⁾、佐野 雅昭¹⁾、田上 修司⁴⁾

¹⁾ 大阪府済生会茨木病院 薬剤科、²⁾ 大阪府済生会茨木病院 消化器内科、³⁾ 大阪府済生会茨木病院 看護部、⁴⁾ 大阪府済生会茨木病院 消化器外科

P7-10 施設間における医療用麻薬注射剤の調製方法の比較

○相田 和希^{1,2)}、梅田 鈴香²⁾、加納 亜由子²⁾、大野 凜太郎²⁾、外山 智章²⁾、
藤村 昭太²⁾、佐藤 淳也²⁾

¹⁾ 佐野厚生総合病院 薬剤部、²⁾ 栃木県緩和支援療法研究会世話人

P7-11 医療用麻薬の処方標準化及び医療安全対策のための医師セットの活用

○渡邊 文^{1,2)}、小澤 康久^{1,2)}、宇井 睦人^{2,3)}、佐藤 忍^{2,4)}、伊藤 広美^{2,4)}、岩井 典子^{2,4)}、
引野 幸司^{2,5)}、澤木 明^{2,5)}、下山 ライ^{2,6)}、中村 雅敏¹⁾

¹⁾ 湘南鎌倉総合病院 薬剤部、²⁾ 湘南鎌倉総合病院 緩和ケアチーム、³⁾ 湘南鎌倉総合病院 総合診療科、⁴⁾ 湘南鎌倉総合病院 看護部、⁵⁾ 湘南鎌倉総合病院 腫瘍内科、⁶⁾ 湘南鎌倉総合病院 外科

P7-12 医療用麻薬に関連するインシデント報告と再発防止への一考察

○酒向 あずみ、関口 昌利

(独) 国立病院機構 霞ヶ浦医療センター 薬剤部

P7-13 オピオイドレスキュー薬の自己管理アセスメントフローの有用性と課題

○佐久間 美岐、吉田 真人、渡辺 圭、源平 麻衣、近藤 匡慶、菅谷 量俊、林 太祐

日本医科大学多摩永山病院 薬剤部

P7-14 入院患者における医療用麻薬（レスキュー薬）自己管理への取り組み

○河野 渉、小原 徹也

吉野川医療センター 薬剤部

P7-15 在宅緩和ケアにおける在支診薬剤師が関与した薬薬連携の実際

○天川 雅彦、竹田 果南

緩和ケア診療所・いっぽ

ポスター発表2 チーム医療

5月25日(土) 17:00~18:00 ポスター会場(文京シビックセンター1階「展示室1・2」)

P7-16 外来がん化学療法におけるトレーシングレポートを用いた専任薬剤師の介入効果

○大澤 勇貴、今川 貴仁、小池 慶彦、上岡 彩佳、木村 麗砂、日浦 寿美子、小林 秀樹

東邦大学医療センター大橋病院

P7-17 緩和ケア病棟におけるサマリーの有用性について

○村上 翔梧、猪熊 なおみ、山本 侑弥、西 千尋、佐古 守人、野村 剛久
医療法人橘会 東住吉森本病院 薬剤部

P7-18 オピオイド持続注投与患者に対して薬局薬剤師と医師が連携した在宅緩和ケアの1症例

○関 美枝子¹⁾、小林 加奈恵¹⁾、市ノ渡 真史²⁾、長谷川 佳孝²⁾、月岡 良太²⁾、
大石 美也²⁾

¹⁾ 株式会社あさひ調剤 アイン薬局久喜本町店、²⁾ 株式会社アインホールディングス

P7-19 浦安市の医療介護連携のためのICTツールにおける問題点の検討と行政を含めた運用のあり方についての調査

○高橋 秀人
タカハシ薬局

P7-20 疼痛コントロールに特化したトレーシングレポート導入に対する保険薬局薬剤師の意識調査

○先崎 郁美、児玉 暁人、山崎 恭平、竹村 充代、西岡 啓子、今井 兼貴、高田 史、
勝浦 正人
市立吹田市民病院 薬剤部

P7-21 軽度発達遅滞を伴う胃がん患者に対し病院と地域の医療者が連携することで外来化学療法と緩和ケアが可能になった一例

○高橋 未来、中田 和宏、木村 美由喜
越谷市立病院

P7-22 緩和領域における薬剤管理サマリーの現状と課題

○萩原 里美¹⁾、畑 加奈子¹⁾、向井 光一郎¹⁾、村本 慎悟¹⁾、細瀧 喜代志²⁾、田宮 貞宏³⁾
¹⁾ くまもと県北病院 薬剤部、²⁾ くまもと県北病院 外科、³⁾ くまもと県北病院 総合診療科

P7-23 末期心不全患者へのオピオイド投与の検討

○西澤 さとみ、久保田 令枝、滝澤 康志
飯山赤十字病院 薬剤部

ポスター発表3 チーム医療

5月26日(日) 14:00~15:00 ポスター会場(文京シビックセンター1階「展示室1・2」)

P7-24 電話フォローアップとトレーシングレポートの活用により疼痛緩和に貢献できた一例

○山本 雅裕¹⁾、伊津田 知樹²⁾、土井 武司³⁾
¹⁾ スギ薬局 渥美病院店、²⁾ スギ薬局 新金岡店、³⁾ スギ薬局 大津富士見台店

P7-25 PHRアプリケーション活用によるがん疼痛マネジメントと課題

○佐藤 弘子¹⁾、田橋 美佳²⁾、安部 圭紀¹⁾、五十嵐 文¹⁾、江上 彩映香¹⁾、高橋 賢成¹⁾
¹⁾ 横浜市立市民病院 薬剤部、²⁾ 薬樹薬局 三ツ沢

- P7-26 皮膚ケアチームにおけるPBPMが抗EGFR抗体薬における皮膚障害発現患者に対する治療継続に貢献を認めた直腸癌の1例
-
- 久保村 優^{1,2)}、輪湖 哲也¹⁾、伊勢 雄也¹⁾
1) 日本医科大学付属病院 薬剤部、2) 日本医科大学付属病院 化学療法科
- P7-27 在宅緩和ケア対応薬局がオピオイド持続皮下投与患者の円滑な在宅療養の移行に貢献した一症例
-
- 伊津田 知樹¹⁾、見越 聖也¹⁾、大久保 匡邦¹⁾、井ノ山 綾香¹⁾、財部 明子¹⁾、盛岡 洋平¹⁾、土井 武司²⁾、山本 雅裕³⁾、日下 茂⁴⁾
1) スギ薬局 新金岡店、2) スギ薬局 大津富士見台店、3) スギ薬局 渥美病院前店、4) くさか内科医院
- P7-28 施設型ホスピスにおける患者・家族の全人的苦痛に対する多職種連携
-
- 島田 顕¹⁾、井上 示子¹⁾、疋田 ちよ恵²⁾、平井 郁里³⁾、石井 智子³⁾
1) ガーデン薬局西口店、2) 医療法人社団平郁会 青野診療所、3) 看護クラーク鷺沼
- P7-29 在宅終末期患者に対する保険薬剤師の介入実態-在宅療養支援診療所の視点から-
-
- 小林 星太^{1,2,3)}、清水 雄三¹⁾、野口 晃²⁾、菅 幸生⁴⁾
1) かがやきクリニック、2) かがやき在宅診療所、3) 北陸大学薬学部、4) 金沢大学医薬保健研究域薬学系臨床薬学
- P7-30 在宅医療における病院薬剤師の薬剤総合評価への参画
-
- 中村 徹¹⁾、舛本 祥一²⁾
1) つくばセントラル病院 薬剤部、2) つくばセントラル病院 総合診療科
- P7-31 高用量ミダゾラムの持続的鎮静で退院し、在宅療養支援を行った一例
-
- 早川 晃央、土田 沙帆
株式会社なの花東日本 なの花薬局 登戸店
- P7-32 重症心不全のためドブタミンおよびミルリノンの持続投与から離脱できず投与を継続したまま在宅を目指した1症例
-
- 筋 由衣¹⁾、安座間 由美子²⁾、照屋 瑛理子²⁾、桑江 周子³⁾、鮫島 有紀¹⁾、久高 理絵¹⁾、友利 幹夫¹⁾
1) 沖縄県立中部病院 薬局、2) 沖縄県立中部病院 地域診療科、3) 沖縄県立中部病院 がん相談支援センター
- P7-33 在宅訪問薬剤師が退院時カンファレンスに参加し、オピオイドの処方設計を支援することでスムーズな退院と在宅療養ができた医療連携事例
-
- 日野 優生¹⁾、早川 友子¹⁾、及川 なぎさ¹⁾、萱沼 裕太¹⁾、平井 文朗¹⁾、大坂 周平²⁾、島田 昌典²⁾
1) 株式会社FINE りおん薬局 新座志木店、2) harmo株式会社
- P7-34 在宅緩和医療において情報共有システムを活用した多職種連携により症状緩和へ繋げることができた1例
-
- 豊留 麻衣¹⁾、西田 愛以¹⁾、石橋 洋子¹⁾、池田 宗弘¹⁾、牧 怜弥²⁾、原 敦子³⁾
1) HYUGA PRIMARY CARE株式会社 きらり薬局 久留米店、2) HYUGA PRIMARY CARE株式会社 きらり薬局 清川店、3) HYUGA PRIMARY CARE株式会社

P7-35 在宅PCAに新たに取り組む在宅医に対して薬局薬剤師がサポートすることで円滑に導入することができた症例

○米本 奈央¹⁾、逆井 慎吾²⁾、松原 つぐみ³⁾、桐山 祐紀江⁴⁾、本田 雅志⁵⁾、河井 伸朗⁶⁾

¹⁾ みよの台薬局株式会社 御代の台薬局 品川二葉店、²⁾ みよの台薬局 (株) 志宝薬局三ツ沢店、³⁾ みよの台薬局 (株) みよの台薬局 大泉学園店、⁴⁾ みよの台薬局 (株) そうごう薬局 在宅調剤センター青砥店、⁵⁾ 総合メディカル株式会社、⁶⁾ みよの台薬局株式会社

P7-36 在宅緩和ケアにおける地域連携薬局の役割
～多職種連携強化のために薬局としてできること～

○富吉 紘史、隈元 正太郎、楠元 俊英

すずな調剤薬局

P7-37 緩和ケアチームと保険調剤薬局との連携により、PCAポンプを使用しながら在宅ケアが可能だった1症例

○伊藤 郁恵¹⁾、鈴木 聡子²⁾、佐々木 良¹⁾、佐々木 晋一³⁾

¹⁾ JA秋田厚生連 由利組合総合病院 薬剤科、²⁾ JA秋田厚生連 由利組合総合病院 看護部、³⁾ JA秋田厚生連 由利組合総合病院 外科

P7-38 在宅医との事前の話し合いにより円滑にオキシコドン持続皮下注に移行しオピオイドスイッチングによる疼痛管理を経験した一例

○五條 元量¹⁾、毎床 比呂冬²⁾、吉田 葉子²⁾、江口 真理子²⁾、鄭 唯学²⁾、山本 華代³⁾

¹⁾ 株式会社大賀薬局 福岡早良在宅調剤センター、²⁾ 株式会社大賀薬局 野芥調剤店、³⁾ 医療法人福西会 福西会病院

P7-39 クモ膜下鎮痛療法にてモルヒネとブピバカインで疼痛コントロールを行い、在宅で看取りまで対応した1症例

○竹内 孝明¹⁾、二階堂 崇³⁾、伊藤 耕司¹⁾、井手 良太⁴⁾、木下 聡士²⁾、島林 逸人³⁾

¹⁾ 株式会社エム・エス経営企画 サンヨー薬局 あけぼの店、²⁾ 株式会社エム・エス経営企画 サンヨー薬局 赤磐店、³⁾ 株式会社エム・エス経営企画 サンヨー薬局 原尾島店、⁴⁾ 株式会社エム・エス経営企画 サンヨー薬局 たけべ店

P7-40 無菌調剤室を有しない薬局での在宅PCAと課題

○西迫 多重

きりん薬局

P7-41 在宅緩和ケアにおいて薬剤管理サマリーを活用することで切れ目のない薬物治療に貢献できた2事例

○桑原 宏昌¹⁾、小西 大輔¹⁾、大川 裕子²⁾、岩根 裕紀²⁾、木全 理容¹⁾

¹⁾ 株式会社エスファーマシー 在宅支援薬局 おとくに、²⁾ 京都桂病院薬剤科

ポスター発表4 チーム医療

5月26日(日) 15:00~16:00 ポスター会場 (文京シビックセンター 1階「展示室1・2」)

P7-42 携帯型精密輸液ポンプを用いた硬膜外持続注入患者の在宅緩和ケアの1例

○高橋 伸夫¹⁾、高野 学美²⁾、加藤 隆³⁾、久保田 洋子³⁾

¹⁾ フロンティア薬局 あざみ野店、²⁾ 貝坂クリニック、³⁾ 千葉科学大学 薬学部

P7-43 在宅がん緩和ケアにおける医薬品供給体制の実態と課題

○串田 一樹¹⁾、白石 丈也²⁾、今城 宏文³⁾、武田 浪弘⁴⁾、山本 健¹⁾、廣原 正宜¹⁾

¹⁾ 昭和薬科大学、²⁾ けやき薬局、³⁾ ツマシナ薬局、⁴⁾ タカノ薬局

P7-44 病院薬剤師における在宅緩和医療に関する認識調査

○原林 六華¹⁾、河崎 尚史^{1,2)}、中村 安孝¹⁾

¹⁾ 大阪公立大学医学部附属病院 薬剤部、²⁾ 大阪公立大学医学部附属病院 新規技術・医薬品審査部

P7-45 自宅療養を希望する患者を最期まで看取ることができた一例

○牧 怜弥¹⁾、岩橋 理紗²⁾、豊留 麻衣³⁾、原 敦子⁴⁾

¹⁾ HYUGA PRIMARI CARE 株式会社 きらり薬局清川店、²⁾ HYUGA PRIMARI CARE 株式会社 きらり薬局糸島店、³⁾ HYUGA PRIMARI CARE 株式会社 きらり薬局久留米店、⁴⁾ HYUGA PRIMARI CARE 株式会社

P7-46 あげぼの薬局メディカル店における在宅移行への取り組み

○沼倉 貴史¹⁾、中村 俊貴¹⁾、坂本 岳志¹⁾、境 美智順²⁾、木村 雅彦³⁾

¹⁾ あげぼのファーマシーグループ あげぼの薬局メディカル店、²⁾ あげぼのファーマシーグループ あげぼの薬局湖畔店、³⁾ あげぼのファーマシーグループ あげぼの薬局

P7-47 多職種共同介入と病診連携によって、患者と患者家族の希望に沿った在宅移行と看取りが可能であった症例

○龍宮 真生子¹⁾、元橋 伸子¹⁾、南里 糸信⁴⁾、福田 彩香⁴⁾、藤森 佳代子⁵⁾、吉田 絵理子⁵⁾、小柳 太嗣⁶⁾、前川 仁³⁾、米田 正始²⁾

¹⁾ 医療法人御殿山 福田総合病院 薬剤科、²⁾ 医療法人御殿山 福田総合病院 循環器科・心臓センター、³⁾ 医療法人健守会 サンクリニック、⁴⁾ 医療法人御殿山 福田総合病院 看護部、⁵⁾ 医療法人御殿山 福田総合病院 リハビリテーション科 地域医療連携室、⁶⁾ フクダ訪問看護ステーション御殿山

P7-48 当院の周術期/術後疼痛管理チームの立ち上げとその運用の評価

○橋本 拓巳、田中 こずえ、山村 智代

野崎徳洲会病院

P7-49 取り下げ

P7-50 当院におけるデスカンファレンスの実態調査

—デスカンファレンスを有効に機能させるために薬剤師ができること—

○竹山 恵理夏¹⁾、木村 歩未¹⁾、伊東 健一¹⁾、秦 洋一²⁾

¹⁾ JCHO 宮崎江南病院 薬剤部、²⁾ JCHO 宮崎江南病院 外科

ポスター発表3 鎮痛薬の副作用

5月26日(日) 14:00~15:00 ポスター会場(文京シビックセンター1階「展示室1・2」)

P8-1 ヒドロモルフォン誘発性の嘔吐に対する予防的制吐剤の有効性についての後方視的調査

○和田 翼、生田 智基、武智 宣佳、松本 拓真、堀田 修次、森近 俊之

独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター 薬剤部

P8-2 オピオイド過量による副作用を改善し在宅復帰が可能となった一症例

○細川 舞、殿垣 聖子、藤本 詩奈子、菊池 希、江岡 芽依、河野 左知、釋 苑子、大西 佑実

医療法人協和会千里中央病院 薬剤科

P8-3 ラブドイド髄膜種による頭痛の疼痛緩和に難渋した患者の一例

○大谷 拓也¹⁾、荘山 咲智子¹⁾、岩川 悟¹⁾、浦川 聖菜¹⁾、千葉 愛珠¹⁾、永松 まき²⁾、野島 寛子²⁾、上原 優子³⁾、吉川 征一郎³⁾、室岡 邦彦¹⁾、高瀬 久光¹⁾

¹⁾ 順天堂大学医学部附属浦安病院 薬剤科、²⁾ 順天堂大学医学部附属浦安病院 看護部、³⁾ 順天堂大学医学部附属浦安病院 がん治療センター

ポスター発表4 鎮痛薬の副作用

5月26日(日) 15:00~16:00 ポスター会場(文京シビックセンター1階「展示室1・2」)

P8-4 ヒドロモルフォン徐放錠の開始用量の違いによる悪心・嘔吐の発現頻度の比較

○廣永 和也^{1,3)}、木本 陶子^{1,3)}、金 徹^{2,3)}、實川 東洋¹⁾

¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 薬剤部、²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 麻酔科、³⁾ 日本医科大学千葉北総病院 緩和ケアチーム

P8-5 プロクロルペラジン錠内服によるレストレスレッグス症候群の増悪が認められた症例

○千葉 愛珠、荘山 咲智子、大谷 拓也、浦川 聖菜、岩川 悟、室岡 邦彦、高瀬 久光
順天堂大学 医学部附属 浦安病院

P8-6 集中治療室または救命救急病棟におけるナルデメジンの使用実態調査

○小森 桂子、柏原 陽平、太田 さと子、清水 麻央、嶋原 奈央、増田 章秀、島田 明日香、伏見 久美子、大林 巧志、富井 真一、土谷 有美

京都第一赤十字病院 薬剤部

P8-7 がん性疼痛患者におけるオピオイド誘発性便秘に対するナルデメジンの効果・副作用に関する調査

○吉田 優太¹⁾、沼田 千賀子¹⁾、橋本 百世²⁾、田中 育子²⁾、竹下 治範¹⁾、猪野 彩¹⁾、岡本 禎晃²⁾

¹⁾ 神戸薬科大学 総合教育研究センター、²⁾ 市立芦屋病院 薬剤科

P8-8 オピオイド鎮痛薬使用患者におけるオピオイド誘発性便秘症への下剤の使用状況調査

○赤星 真広、森岡 友美、佐多 照正

鹿児島厚生連病院 薬剤科

ポスター発表3 鎮痛薬の副作用

5月26日(日) 14:00~15:00 ポスター会場(文京シビックセンター1階「展示室1・2」)

P8-9 経口強オピオイドに対するナルデメジンの併用率とOICへの有効性、安全性の調査

○柘植 友考

名鉄病院 薬剤部

P8-10 当院におけるオピオイド誘発性便秘に対するナルデメジン単独投与の有用性

○鈴木 景就¹⁾、村川 麻里子^{1,2)}、藤原 大地^{2,3)}、菊地 未紗子^{2,4)}、明石 浩史^{2,5)}

¹⁾ 済生会小樽病院 薬剤室、²⁾ 緩和ケアチーム、³⁾ 看護部、⁴⁾ 緩和ケア内科、⁵⁾ 内科

P8-11 当院における術後オピオイド使用患者に対するナルデメジンの実態調査

○喜田 昌記¹⁾、汐見 史織¹⁾、関戸 匡恵¹⁾、伊藤 朱里¹⁾、庄司 圭佑¹⁾、小城原 傑²⁾、
長井 友子³⁾、森 麻衣子⁴⁾、柏原 由佳¹⁾

¹⁾ 昭和大学江東豊洲病院 薬剤部、²⁾ 昭和大学江東豊洲病院 消化器センター、³⁾ 昭和大学江東豊洲病院 精神科、⁴⁾ 昭和大学江東豊洲病院 集中治療科

P8-12 疼痛管理中にケミカルコーピングが疑われた一例

○諫見 圭佑^{1,2)}、鳥山 陽子^{1,2)}、杉尾 由希子¹⁾、馬籠 さつき²⁾、安庭 愛子²⁾、松崎 勉²⁾

¹⁾ 国立病院機構鹿児島医療センター 薬剤部、²⁾ 同センター緩和ケアチーム

P8-13 脳病変のない大腸癌患者に対して、ナルデメジン投与によりオピオイド離脱症候群が出現した1例

○林 克剛¹⁾、江刺 晶央¹⁾、三上 貴弘¹⁾、浅野 二未也¹⁾、佐竹 宣明²⁾、武田 郁央²⁾、
清川 裕道²⁾、猪岡 京子¹⁾

¹⁾ 宮城県立がんセンター 薬剤部、²⁾ 宮城県立がんセンター 緩和ケア内科

P8-14 フェンタニル速方製剤で精神依存が形成されたと思われる症例

○引野 真由美¹⁾、霍間 尚樹¹⁾、小川 雅裕²⁾

¹⁾ 厚生連佐渡総合病院 薬剤部、²⁾ 厚生連佐渡総合病院 消化器内科

P8-15 高齢がん患者へのジクロフェナクNa貼付剤が腎機能に与える影響と経口NSAIDsとの比較

○黒木 優歩、中島 隆司、愛甲 隼人、藤崎 崇史、中村 聡志、上村 豪、木原 研二、
長谷 茂也、永田 行隆、本屋 敏郎

垂水市立医療センター 垂水中央病院 薬剤室

ポスター発表4 鎮痛薬の副作用

5月26日(日) 15:00~16:00 ポスター会場(文京シビックセンター1階「展示室1・2」)

P8-16 クエチアピン内服中の患者でトラマドール増量後にセロトニン症候群が疑われた一症例

○徳永 楓果^{1,2)}、後藤 若菜^{1,2)}、荻尾 夕起子^{1,2)}、岸本 真¹⁾

¹⁾ 霧島市立医師会医療センター 薬剤部、²⁾ 霧島市立医師会医療センター 緩和ケアチーム

P8-17 メサドンによるQT延長を早期発見できた症例

○内山 愛

みなと医療生活協同組合 協立総合病院

P8-18 メサドン導入時の心電図モニタリングによる安全性評価についての検討

○大内 竜介^{1,2)}、薄井 健介^{1,2)}、渡邊 卓嗣^{1,2)}、鈴木 清寿³⁾、長尾 宗紀³⁾、山方 俊弘³⁾、
千葉 美枝⁴⁾、児山 香³⁾、岡田 浩司^{1,2)}

¹⁾ 東北医科薬科大学 薬学部 病院薬剤学教室、²⁾ 東北医科薬科大学病院 薬剤部、³⁾ 東北医科薬科大学病院 がん治療支援科、⁴⁾ 東北医科薬科大学病院 看護部

P8-19 Japanese Adverse Drug Event Report database を用いた Loxoprofen と Celecoxib の服用期間における腎機能障害発現頻度の比較

○上島 健太郎¹⁾、金子 健²⁾、和田 紀子³⁾、喜田 昌記⁴⁾、柏原 由佳⁴⁾、城山 亮輔⁵⁾、伊東 俊雅⁶⁾

¹⁾ 日本大学医学部附属板橋病院 薬剤部、²⁾ 慶應義塾大学病院薬剤部・緩和ケアセンター、³⁾ 昭和大学病院薬剤部、⁴⁾ 昭和大学江東豊洲病院薬剤部、⁵⁾ 東京大学医学部附属病院薬剤部、⁶⁾ 東京女子医科大学附属足立医療センター薬剤部

ポスター発表4 疼痛管理

5月26日(日) 15:00~16:00 ポスター会場(文京シビックセンター1階「展示室1・2」)

P9-1 ジクロフェナクナトリウム経皮吸収型製剤の使用実態調査

○高山 直也、佐々木 美理、小林 奈緒、矢野 莉穂、南 朱音、加藤 一郎
済生会横浜市南部病院 薬剤部

P9-2 当院におけるジクロフェナクナトリウム経皮吸収型製剤の使用状況調査

○久保 美由紀、金山 花恋、松吉 悠、寺井 雅美、森本 和雄
医療法人啓信会 京都きづ川病院 医療技術部 薬剤部門

P9-3 がん性疼痛に対するジクロフェナクナトリウム貼付剤の使用状況調査

○間 美和、小泉 陽奈子、中原 萌子、高武 嘉道、大橋 邦央、藤瀬 陽子、橋本 雅司
NHO 九州医療センター

P9-4 フェンタニル持続注と高用量ジクロフェナク経皮吸収型製剤を併用し、早期退院につながった1例

○池口 麻由子¹⁾、桐生 浩子¹⁾、今西 義紀¹⁾、近藤 加奈子¹⁾、大矢知 立城¹⁾、北本 千晴¹⁾、水谷 日花里¹⁾、森脇 健太郎²⁾、小出 哲朗¹⁾、伊藤 久美子¹⁾
¹⁾ 桑名市総合医療センター 薬剤部、²⁾ モリワキ薬局

P9-5 高用量ヒドロモルフォン内服からメサドンへ変更して疼痛が改善した1症例

○小宮 孝俊、石川 智子、後藤 綾、牧野 智美、福江 弘子、樋口 恭子
久留米大学病院 薬剤部

P9-6 ヒドロモルフォン塩酸塩注導入直後の用量変更の発生状況

○菅谷 香緒里¹⁾、神山 直也¹⁾、眞鍋 貴行¹⁾、山本 香緒里¹⁾、山本 譲¹⁾、小野 尚志¹⁾、中馬 真幸¹⁾、小野寺 美子²⁾、田崎 嘉一¹⁾
¹⁾ 旭川医科大学病院 薬剤部、²⁾ 旭川医科大学病院 緩和ケア診療部

P9-7 オピオイド鎮痛薬使用患者における自動車運転に関するアンケート調査

○星野 剛史、柳下 昂太、木下 史一、山口 香織、杉本 智恵子、勝又 博司、菅尾 高裕
順天堂大学医学部附属静岡病院

P9-8 フェンタニルの鎮痛耐性が疑われるコントロール不良のがん性疼痛に対してヒドロモルフォンの併用が有用であった1例

○末吉 真樹^{1,2)}、大平 勇二¹⁾、大井 初江²⁾、齋藤 宏明¹⁾、冨本 茂裕²⁾
¹⁾ JA愛知厚生連 知多厚生病院 薬剤部、²⁾ JA愛知厚生連 知多厚生病院 緩和ケアチーム

P9-9 疼痛管理と化学療法による悪心コントロール

○堀 敦雄、祖父江 伸匡、吉田 紀子

長浜赤十字病院 薬剤部

P9-10 強オピオイド鎮痛薬の内服初回用量に関する処方実態調査

○中村 真人¹⁾、平田 一耕^{2,3)}、川名 真理子³⁾、舟越 亮寛^{3,4)}

¹⁾ クオール株式会社、²⁾ 医療法人鉄蕉会 亀田クリニック 薬剤室、³⁾ 医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 薬剤部、⁴⁾ 医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 医療管理本部 薬剤管理部

P9-11 当院における低用量フェンタニル貼付剤の使用動向調査

○郷治 久美、伊藤 聡一郎、深津 昌弘、吉田 ひかり、山田 哲也

公立陶生病院 医療技術局薬剤部

P9-12 脊髄くも膜下持続鎮痛における当院薬剤師の関わり

○丸田 佐知子¹⁾、高橋 侑子¹⁾、仁木 富美子¹⁾、猿渡 康宏¹⁾、伊藤 由希¹⁾、
寺本 拓哉¹⁾、水本 智子¹⁾、平井 裕子¹⁾、相川 りえ²⁾、鳥崎 哲平³⁾

¹⁾ 大腸肛門病センター高野病院 薬局、²⁾ 大腸肛門病センター高野病院 看護部、³⁾ 大腸肛門病センター高野病院 緩和ケア科

P9-13 当院における内服・外用強オピオイド導入時の薬剤選択状況の調査

○上西 真理子、梅田 勇一、皆元 文恵、稲員 慎

飯塚病院

P9-14 難治性疼痛に対し、メサドンとヒドロモルフォンの併用で良好な鎮痛効果が得られた1例

○吉金 鮎美^{1,4)}、清水 彩加^{1,4)}、青野 由依^{1,4)}、長谷川 英利^{1,4)}、畑 裕基¹⁾、
相木 佐代^{2,4)}、前倉 俊也^{2,4)}、櫻井 真知子^{3,4)}、村津 圭治¹⁾、山下 大輔¹⁾、
吉野 宗宏¹⁾

¹⁾ 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター 薬剤部、²⁾ 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター 緩和ケア内科、³⁾ 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター 看護部、⁴⁾ 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター ケアサポートチーム

P9-15 がん性疼痛に対してモルヒネとメサドンを併用した1例

○菅原 馨悟、中居 肇

大館市立総合病院 薬剤科

P9-16 ヒドロモルフォンの導入から3年-現在の使用状況-

○山田 啓美

地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立多摩総合医療センター 薬剤科

P9-17 高用量オピオイド鎮痛薬使用患者に対するオピオイドスイッチングによりオピオイド鎮痛薬を適切に減量できた1例

○小嶋 恭平¹⁾、土橋 和久¹⁾、飯塚 恒²⁾

¹⁾ 山梨厚生病院 薬剤室、²⁾ 山梨厚生病院 乳腺外科

P9-18 ヒドロモルフォン注射剤から内服剤へ変更時に過量となった1例

○村田 智弘、秦 晃二郎、田中 博和、宮津 大輔、後藤 美緒、渡邊 裕之
医療法人徳洲会 福岡徳洲会病院 薬剤部

P9-19 入院中のヒドロモルフォン徐放錠服用時刻の検討
～持続注射への投与経路変更のタイミングから考察する～

○松波 寿雄、大川 浩子
金沢赤十字病院 薬剤部

P9-20 在宅療養中独居患者のメサドンへのスイッチ

○土田 沙帆、早川 晃央、吉川 真帆
株式会社 なの花東日本

P9-21 高用量モルヒネ注射液を使用している在宅患者に対して、ヒドロモルフォン注への
スイッチングを2段階式で実施した事例

○桐山 祐紀江¹⁾、逆井 慎吾²⁾、米本 奈央³⁾、松原 つぐみ⁴⁾、本田 雅志⁵⁾、河井 伸朗⁶⁾
¹⁾ みよの台薬局(株) そうごう薬局 在宅調剤センター青砥店、²⁾ みよの台薬局(株) 志宝薬
局三ツ沢店、³⁾ みよの台薬局(株) 御代の台薬局 品川二葉店、⁴⁾ みよの台薬局(株) みよの
台薬局 大泉学園店、⁵⁾ 総合メディカル株式会社、⁶⁾ みよの台薬局株式会社

P9-22 メサドンを先行するオピオイドに少量併用し導入した5症例の後方視的検討

○稲見 薫^{1,2)}、奥田 泰考¹⁾、藤村 昭太¹⁾、荒川 昌史¹⁾、島田 宣弘³⁾、黒崎 史朗²⁾、
清水 敦²⁾、丹波 嘉一郎²⁾、今井 靖^{1,4)}
¹⁾ 自治医科大学附属病院 薬剤部、²⁾ 自治医科大学附属病院 緩和ケア科、³⁾ 自治医科大学附属
病院 麻酔科、⁴⁾ 自治医科大学 医学部 薬理学講座 臨床薬理学部門

P9-23 経口オキシコドンから経口モルヒネへのオピオイドスイッチングによる鎮痛効果の改善に
関する検討

○加藤 香穂^{1,2)}、相内 志織^{1,2)}、番場 麻菜美^{1,2)}、柳本 千景²⁾、山田 真奈美²⁾、
太田 智裕^{2,3)}、小野 優紀¹⁾、的場 元弘^{2,3)}
¹⁾ 青森県立中央病院 薬剤部、²⁾ 青森県立中央病院 緩和ケアチーム、³⁾ 青森県立中央病院 緩和
医療科

P9-24 高濃度オピオイドによる皮下硬結で対応に苦慮した一例

○石山 明人¹⁾、長尾 尚俊¹⁾、伊藤 健大²⁾、永田 純一³⁾
¹⁾ 株式会社大島ファーマシー 八木原薬局、²⁾ 訪問看護ステーション ウェルビー、³⁾ 大島なが
たクリニック

P9-25 ヒドロモルフォン注射剤から経口剤へのスイッチング時の換算比の実態調査

○佐藤 美樹¹⁾、藤堂 真紀¹⁾、高橋 孝郎²⁾、牧野 好倫¹⁾
¹⁾ 埼玉医科大学国際医療センター 薬剤部、²⁾ 埼玉医科大学国際医療センター 支持医療科

ポスター発表4 疼痛管理

5月26日(日) 15:00~16:00 ポスター会場(文京シビックセンター1階「展示室1・2」)

P9-26 後腹膜平滑筋肉腫に対して早期メサドン導入が有効であった1症例

○井上 示子¹⁾、今江 賢史¹⁾、相澤 政明¹⁾、奥津 輝男²⁾、安部 理恵³⁾

¹⁾ 株式会社メディカルガーデン ガーデン薬局西口店、²⁾ 奥田外科胃腸科クリニック、³⁾ 看護クラーク秦野

P9-27 より安全で確実なオピオイドスイッチング ～薬剤師による看護師への研修の有用性について～

○伊吹 千穂¹⁾、青田 志織¹⁾、寺岡 綾¹⁾、中川 道彦¹⁾、萩田 恵美子²⁾、渡邊 道代²⁾、塩地 聖一³⁾

¹⁾ 松戸市立福祉医療センター 東松戸病院 薬局、²⁾ 松戸市立福祉医療センター 東松戸病院 看護局、³⁾ 松戸市立総合医療センター 薬局

P9-28 メサドン導入により難治性疼痛コントロールを行った1例

○西崎 百合恵^{1,2)}、齊藤 太紀^{1,2)}、シュワルツ 史子²⁾、浅野 あさみ²⁾、藤井 理恵薫²⁾、佐藤 裕子²⁾、横尾 実乃里²⁾、太田 周平²⁾、櫻井 学¹⁾

¹⁾ 神奈川県立がんセンター 薬剤科、²⁾ 神奈川県立がんセンター 緩和ケアチーム

P9-29 オピオイドスイッチングにより除痛ができた1症例

○滝澤 康志、久保田 令枝、西澤 さとみ

飯山赤十字病院 薬剤部

P9-30 ヒドロモルフォン注射剤から経口剤への換算比についての検討

○平野 貴志、加藤 遥、山口 史恵、吉川 直利、横田 学

半田市立半田病院 薬剤科

P9-31 オキシコドン皮下注からフェンタニル皮下注へオピオイドスイッチングすることでがん患者の悪心・嘔吐症状が改善し自宅退院が可能となった1例

○福島 与詩香、加藤 あゆみ、伊勢 雄也

日本医科大学付属病院 薬剤部

P9-32 先行オピオイド鎮痛薬の一部をメサドンへ段階的に切り替えることによって疼痛コントロールが良好となった1症例

○谷岡 哲、高舘 修、宮川 千珠、山本 国孝、喜多 祐也

札幌南徳洲会病院薬剤部

ポスター発表3 疼痛管理

5月26日(日) 14:00~15:00 ポスター会場(文京シビックセンター1階「展示室1・2」)

P9-33 在宅でのオピオイドスイッチの実際

○柴田 るり子¹⁾、鍋田 貴裕¹⁾、吉野 楽¹⁾、小菅 ほのか¹⁾、円城寺 竜太郎¹⁾、和田 喜代香²⁾、黒木 光良²⁾、高橋 眞生²⁾

¹⁾ カネマタ薬局 中央店、²⁾ カネマタ薬局

P9-34 ラコサミドが奏功し在宅療養に移行できた一例

○小崎 恵美、中野 路子、曲山 恵美、庄司 由佳
JA福島厚生連 塙厚生病院

P9-35 当院におけるケタミン注の使用実態調査

○吉田 勝好¹⁾、岡本 怜奈²⁾、大石 美咲³⁾、安木 早紀¹⁾、大谷 崇仁¹⁾、田原 明子¹⁾、郷原 学¹⁾

¹⁾ 益田赤十字病院 薬剤部、²⁾ ファーマシイ薬局 益田センター、³⁾ 益田地域医療センター医師会病院 薬剤科

P9-36 取り下げ

P9-37 胆のう癌においてリドカイン点滴静注を十分量使用することで鎮痛効果が認められた一症例

○後藤 若菜¹⁾、徳永 楓果^{1,2)}、荻尾 夕起子^{1,2)}、岸本 真¹⁾

¹⁾ 霧島市立医師会医療センター 薬剤部、²⁾ 霧島市立医師会医療センター 緩和ケアチーム

P9-38 筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者の呼吸困難感に対し経口モルヒネにて対応した一症例

○三浦 篤史、村田 香菜、佐々木 祥恵、渡邊 将隆

JA長野厚生連 佐久総合病院 薬剤部

P9-39 整形外科領域におけるジクロフェナクナトリウム経皮吸収型製剤の使用状況調査

○枝廣 茂樹¹⁾、河原 葉子¹⁾、瀬戸 信一郎²⁾

¹⁾ 千代町薬局、²⁾ 瀬戸整形外科クリニック

ポスター発表4 疼痛管理

5月26日（日） 15:00～16:00 ポスター会場（文京シビックセンター 1階「展示室1・2」）

P9-40 疼痛緩和に難渋した在宅患者に対して、スピリチュアルペインの影響などを疑い、抗精神病薬の処方提案等で疼痛緩和に貢献した1例

○逆井 慎吾¹⁾、桐山 祐紀江²⁾、米本 奈央³⁾、松原 つぐみ⁴⁾、本田 雅志⁵⁾、河井 伸朗⁶⁾

¹⁾ みよの台薬局株式会社 志宝薬局三ツ沢店、²⁾ みよの台薬局株式会社 そうごう薬局 在宅調剤センター青砥店、³⁾ みよの台薬局株式会社 御代の台薬局 品川二葉店、⁴⁾ みよの台薬局株式会社 みよの台薬局 大泉学園店、⁵⁾ 総合メディカル株式会社、⁶⁾ みよの台薬局株式会社

P9-41 筋萎縮性側索硬化症における苦痛緩和に対してフェンタニルクエン酸塩貼付剤とモルヒネ製剤併用が有効だった1症例

○竹村 智行¹⁾、島田 顕¹⁾、西川 彩花²⁾、堀江 修³⁾

¹⁾ 株式会社メディカルガーデン ガーデン薬局中央店、²⁾ CUCホスピスReHOPE伊勢原、³⁾ 医療法人社団杏月会 伊勢原駅前クリニック

P9-42 尋常性天疱瘡の皮膚、口腔内における疼痛にオキシコンチンとキシロカインが有効であった一症例

○島崎 洋平、岩瀬 哲、高杉 綾香、宮部 拓哉、新野 捺美、栗原 弘樹、三浦 香奈子、松本 佳祐

埼玉医科大学病院 薬剤部

○澁谷 恵美子

IHI 播磨病院

ポスター発表4 基礎研究

5月26日(日) 15:00~16:00 ポスター会場(文京シビックセンター 1階「展示室1・2」)

P10-1 薬局薬剤師の疼痛管理! ~ PCA導入を積極的にサポートした症例報告~

○佐藤 雄紀、近藤 澄子、加藤 誠一、寺戸 靖、篠原 祐樹、荏原 俊介

株式会社ピノキオ薬局

P10-2 薬剤性吃逆(しゃっくり)と関連する核内受容体の検討

○細谷 龍一郎^{1,2)}、寺島 朝子¹⁾、野澤(石井) 玲子³⁾、植沢 芳広²⁾、加賀谷 肇¹⁾

¹⁾ 湘南医療大学薬学部 臨床薬剤学研究室、²⁾ 明治薬科大学 医療分子解析学研究室、³⁾ 明治薬科大学 薬理学研究室

P10-3 PCAポンプのデバイス毎の満足度についての調査研究 ~クーデックエイミーPCAはCADD Legacy PCAに置き換わるか! ?

○高橋 広将¹⁾、丸一 泰雅²⁾、草場 大作²⁾、中川 友之³⁾、荒川 太一³⁾、折戸 真澄⁴⁾

¹⁾ 北陸クオール株式会社 太平寺らいふ薬局、²⁾ 北陸クオール株式会社 若葉らいふ薬局、³⁾ 北陸クオール株式会社 泉出町らいふ薬局、⁴⁾ 北陸クオール株式会社 足田らいふ薬局

ポスター発表4 がん薬物療法の副作用2

5月26日(日) 15:00~16:00 ポスター会場(文京シビックセンター 1階「展示室1・2」)

P11-1 化学療法後に腫瘍部位の疼痛が一時的に増悪した悪性リンパ腫の1例

○岡崎 将也、山内 健、吉川 明良、河瀬 志保

地方独立行政法人 広島市立病院機構広島市立舟入市民病院 薬剤科

P11-2 ペグアスパルガーゼによるInfusion reactionを呈した症例に対してレジメン変更検討をした一例

○野津 祐貴、大谷 拓也、戸田 純司、岩川 悟、細野 貴成、高橋 信矢、室岡 邦彦、高瀬 久光

順天堂大学医学部附属浦安病院

P11-3 外来がん薬物療法患者への診察前薬剤師の副作用確認による症状緩和への関わり

○宮内 実奈絵、井上 美紗、毛利 萌、間宮 知子、根来 早紀子、中川 雅史、泉本 裕美、井出 朋子、櫻葉 利人

市立岸和田市民病院

P11-4 当院外来化学療法室における閉鎖式薬物移送システム導入薬剤拡大後の曝露調査と地域との連携について

○庄司 美侑¹⁾、田中 弘人^{1,2)}、井ノ口 岳洋^{1,2)}、久保村 優^{1,2)}、吉川 聡美¹⁾、村上 美聖^{1,2)}、岸田 悦子^{1,2)}、輪湖 哲也¹⁾、伊勢 雄也¹⁾、笠原 寿郎²⁾

¹⁾ 日本医科大学付属病院薬剤部、²⁾ 日本医科大学付属病院化学療法科

P11-5 抗がん剤投与による味覚障害患者に対するクロナゼパム投与が有効だった1例

○宮内 秀典、安島 亜矢子、小林 功典、川崎 椋太、野口 周作、笠原 英城
日本医科大学武蔵小杉病院薬剤部